

学会記事

公益社団法人 日本看護科学学会 平成 25 年度 6 月定例社員総会 議案書

日 時：平成 25 年（2013 年）6 月 23 日（日）

11:30～14:00（予定）

場 所：ベルサール神田

東京都千代田区神田美土代町 7 住友不動産

神田ビル 3F

TEL：03-5281-3053

【議事次第】

I. 開会

II. 理事長挨拶

III. 第 33 回日本看護科学学会学術集會会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 報告事項

1. 理事会および社員総会活動状況
2. 総務報告
3. 選挙管理委員会報告
4. 平成 24 年度事業報告
 - (1) 第 32 回日本看護科学学会学術集會開催
 - (2) 第 33 回・第 34 回日本看護科学学会学術集會準備
 - (3) 和文誌の発行
 - (4) 英文誌の発行
 - (5) 看護学学術振興対策
 - ①看護学学術用語の検討

②国際活動の推進

③看護倫理の検討と啓発

④研究成果の蓄積と活用

⑤ JANS セミナー

(6) 学術研究論文の表彰

(7) 学会組織の強化・発展

・将来構想に基づく新たな展開への準備

(8) 社会貢献活動

(9) 広報活動

(10) 災害看護支援事業

(11) 他機関との連携活動

①日本看護系学会協議会

②看護系学会等社会保険連合

③日本学術会議

④世界看護科学学会

⑤その他の機関

(12) 理事候補者選挙準備

(13) 30 周年記念事業

VI. 審議事項

1. 平成 24 年度決算の承認および会計監査の報告
2. 理事選任案の承認

VII. その他

VIII. 閉会

公益社団法人 日本看護科学学会 平成 25 年度 6 月 定例（定時）社員総会 議事録

日 時：平成 25 年（2013 年）6 月 23 日（日）

11:30～14:00

場 所：ベルサール神田

東京都千代田区神田美土代町 7 住友不動産
神田ビル 3F

総社員数：202 名

出席社員数：159 名（会場 68 名，委任状 91 名）

会場出席者：社員（代議員）

小松浩子 理事長，田代順子 副理事長，
石井邦子，岡谷恵子，上泉和子，萱間真美，
グレッグ美鈴，酒井郁子，高橋眞理，安酸
史子，吉沢豊予子

（以上 11 名，理事）

小島操子，近藤潤子

（以上 2 名，監事）

明石恵子，畦地博子，安藤詳子，稲垣美智子，
植田喜久子，上野栄一，内田雅代，浦田秀
子，大津廣子，大塚眞理子，大室律子，岡
田 忍，奥宮暁子，小野ミツ，片岡 純，
勝田仁美，鎌倉やよい，河口てる子，北岡
和代，北原悦子，北村愛子，草間朋子，國方
弘子，小板橋喜久代（新任理事），小林
淳子，佐藤富美子，清水嘉子，新道幸恵，
末原紀美代，鈴木志津枝，關戸啓子，征矢
野あや子，田中京子，谷本眞理子，田村
やよひ（新任理事），永井優子，長戸和子，
奈良間美保，西村ユミ，二宮啓子，野地
有子，野末聖香，濱口恵子，林 優子，
菱沼典子，藤井徹也，町浦美智子，三上
れつ，水野道代，宮崎美砂子（新任理事），
森下安子，矢野正子，山田律子，山本利江，
良村貞子

（以上 55 名）

〔50 音順〕

第 33 回日本看護科学学会学術集会長

林 優子

非代議員

選挙管理委員長 太田勝正

議 長：小松浩子（理事長）

議事録作成者：萱間真美（総務担当理事）

I. 開会

開会時，会場出席社員数 62 名（うち理事・監事 13 名，それ以外の代議員 49 名），有効委任状 91 名，総計 153 名であり，全代議員 202 名の過半数であるため，定款第 23 条，第 24 条に定められた要件を満たしており，公益社団法人日本看護科学学会 平成 25 年度 6 月定例（定時）社員総会は成立した。

司会は田代副理事長，書記は大熊恵子，木戸芳史で行なわれた。

II. 理事長挨拶 〈小松理事長〉

以下の挨拶があった。

梅雨の晴れ間で社員総会によい天候に恵まれました。皆様と共に有意義な時間を過ごすべく，平成 25 年 6 月の定例社員総会を行なうに先立ち，この期を振り返ってみたいと思います。

世の中の動きをみても，健康の問題や関連法案（ドメスティック・バイオレンス防止など）があり，安心と信頼できる社会が求められています。看護科学は信頼される学問集団として，社会に貢献していく使命があると考えます。

本理事会で取り組んできたことは，創立 30 周年を迎える中で，将来構想委員会からいただいた課題として，財政基盤の安定化，看護学の質向上に資する事業，若手研究者の育成，の 3 本柱を念頭に行なってきました。その中で新規事業にも取り組みましたが，具体的には事業報告でお伝えします。

2012 年 11 月の社員総会で報告したように，財政基盤安定化に向けた事業として，メールを活用した会員向け情報発信，選挙の Web 化（電子投票），Web 会議システムの採用などを実施しました。また，新しい委員会として学術振興事業検討委員会を立ち上げ，看護学における学術振興の青写真作りに着手し，若手アカデミーについても検討中です。新規事業としては，JANS セミナーを本日開催を含めて 2 回，行なっています。

今後の事業展開については，質疑応答の中で検討していきたいので，会場の皆様にも積極的な発言をお願いいたします。

Ⅲ. 第33回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶 〈林会長〉

以下の挨拶があった。

学術集会を大阪の地で開催させていただき林と申します。会期まであと半年に迫り、この準備については、理事会の皆様、事務所の皆様、会員の皆様のご協力で進めさせていただき、ありがたく感じております。JANS33（第33回学術集会）は、「看護の力で社会が変わる」をテーマに進めています。

現時点で演題登録が990題で、昨年と比較して100以上多い数となっています。交流集会は46題で、こちらも会場数に限りがあるが、できるだけ調整していくつもりです。また、査読者を務めていただいている362名の会員の方々に感謝申し上げます。実行委員はボランティアを含め188名で、これからも増やす努力をしていきます。参加登録状況（6/13現在）は266名で、やや出足が遅いものの、ぜひ懇親会にも参加していただきたいと考えます。

最終的な参加者として、2,800名を集めたいと考えており、多くの皆様にご参加いただけるよう、周囲の先生方にお声掛けをお願いします。

Ⅳ. 議長指名および議事録署名人の承認

定款第22条3項に従い、小松理事長が議長に選出された。

出席者から議事録署名人を募ったが、立候補がなかったため、議長より代議員の濱口恵子氏、野地有子氏の2名が推薦され、満場一致により承認された。

Ⅴ. 報告事項

1. 理事会報告および社員総会報告 〈小松理事長〉

議案書【資料1】に基づき、説明がされた。

平成24年度は書面理事会を含めて7回の理事会を開催し、先に述べた全体的な方針に従い、理事会および各委員会による事業の報告と審議を行なった。

平成24年度6月定例社員総会（2012年6月10日、於：慶應義塾大学・信濃町キャンパス）では、審議事項として平成23年度決算および財務基盤安定化に向けての取り組みを提案し、承認された。

平成24年度11月社員総会（2012年11月29日、於：聖路加看護大学）では、財務基盤安定化の一環としての受取会費配分率の変更、国際活動推進事業（世界看護科学学会＝WANS）の公益目的事業への変更認定申請、平成25年度事業計画と予算案、名誉会員の追

加、第35回学術集会（JANS35）会長について提案し、承認された。

2. 総務報告 〈萱間理事〉

本年4月1日現在の正会員数は6,354名であるが、3月31日時点の集計（6,667名）より少ない理由は、年度末特有の現象として、自主退会および会費未納による資格喪失者がいるためである。賛助会員の増減はなく、名誉会員については、1名が逝去、新たに1名が承認され、増減はない。地区別会員数の分布、正会員数の推移については、議案書【資料3】の表をご参照いただきたい。

3. 選挙管理委員会報告 〈太田委員長〉

議案書【資料4】に基づき、説明がされた。

定款第27条に基づき、役員（理事）候補者の選出を、初の試みとしてWeb選挙で実施した。

2012年12月15日に公示、2013年1月15日から投票練習期間および投票用紙による投票（紙投票）希望の申し出期間を設け、2月1日にHPで予告、投票期間は2月7日9:00～2月28日23:59とした。紙投票は2月4日発送、2月25日到着分を有効とした。開票は3月1日11:00、立会人（東京有明医療大学教授前田樹海氏）のもと、厳正に行なった。

投票結果は、有権者である代議員202名、被選挙人198名（3期連続理事と監事を除く）に対し、投票総数142件（うち紙投票2件）、最終的な投票率が70.3%であった。

得票数の上位11名を当選者とし、次点者リストを50位まで作成。当選者への就任諾否確認の結果、不承諾もあり、繰り上げ当選の手続きを順次行ない、最終的に11名の理事候補者を得て、5月12日、平成25年度第1回理事会にて報告した。

紙投票の希望者は4名であり、今後のWeb選挙運用は可能と思われるが、3週間の投票期間中、投票率を上げるため、4回のリマインドメールを代議員宛に送り、70%を超えた経緯がある。また、選挙により選ばれる理事候補者数（11名）に対し、辞退者が50%を超える数となり、これは前回の理事選挙と同様の結果である。以上の結果を踏まえて、今後のWeb選挙（代議員選挙、役員候補者選挙）の進め方について、さらなる検討が必要である。

4. 平成 24 年度事業報告

議案書【資料 6】に基づき、各担当理事より以下の報告があった。

(1) 第 32 回日本看護科学学会学術集会開催 〈萱間理事〉

太田喜久子会長のもと、2012 年 11 月 30 日と 12 月 1 日、「日本再生のとき、看護学の真価を問う」をテーマに東京国際フォーラムにて開催し、3,384 名の参加者を得た。

(2) 第 33 回・第 34 回日本看護科学学会学術集会 準備 〈萱間理事〉

第 33 回学術集会を林優子会長のもと、2013 年 12 月 6 日と 7 日、「看護の力で社会が変わる」をテーマに、大阪国際会議場で開催する。

第 34 回学術集会を鎌倉やよい会長のもと、2014 年に開催予定である。

(3) 和文誌の発行 〈上泉理事〉

日本看護科学会誌（第 32 巻第 2 号，同 3 号，同 4 号，第 33 巻第 1 号）を刊行し、各号、それぞれ 6,875 名，7,071 名，7,070 名，7,070 名に頒布した。和文誌 Web 化ロードマップだが、平成 24 年度～平成 25 年度は年 4 回の冊子+年 4 回の電子ジャーナル、平成 26 年度は年 1 回の冊子+電子ジャーナル（随時，論文単位）、平成 27 年度に電子ジャーナル化（随時，論文単位）+印刷版の希望者への頒布（受益者負担）である。

電子投稿論文の査読について、ガイドライン改訂、査読者増員を行なった。

また、学会誌データベースとの連携として、J-stage での和文誌の利用状況確認を行なった。さらに、電子ジャーナル・文献ダウンロード提供サービスである、(株)メテオ (Medical Online) および(株)医学書院 (Medical Finder) の 2 社と契約手続きを完了した。

JANS32 にて、「査読の質の向上を目指して」をテーマに交流集会を開催し、120 名が参加した。

(4) 英文誌の発行 〈グレッグ理事〉

Japan Journal of Nursing Science Vol. 9 No. 1 (2012 年 6 月)，Vol. 9 No. 2 (2012 年 12 月) を発刊し、それぞれ 6,635 名，7,080 名に頒布した。ちなみに印刷版は Vol. 10 No. 2 (2013 年 12 月) が最終号となり、「10 周年記念特集号」を企画中である。

投稿数の増加に伴い、編集活動のタイムフレーム明確化、プライマリースクリーニング手順確立、早期不採択論文への定型メール作成など、効率化を実施。また、Author guidelines を修正した。

2014 年からの Online only Journal への移行を見据え、本年 3 月より JJNS Content Alert (New Articles) を会員一斉メールで月 1 回、配信している。同時に HP 上に、JJNS 閲覧の手引きを掲載した。

2012 年 10 月 27 日、啓発活動として“Improving your success at publishing in English”のセミナーを開いた。会員一斉メールで周知し、本部の行事管理システムで申し込み管理を行なった。参加者 91 名を得て、好評であった。

なお、平成 23 年度の impact factor は、0.200 であった。数日前の連絡のため議案書には記載していないが、平成 24 年度は 0.583 となり、過去最高となった。

(5) 看護学学術振興対策

①看護学学術用語の検討 〈和住理事〉 ※欠席により理事長代読

学会 HP に「看護学を構成する重要な用語集」をアップした。

用語を定期的に見直し、会員、他の看護系学会、他学問領域の意見を参考に調べ聴取ながら、随時更新していくシステム構築に向け、1) 本学会の用語特定に関する活動の整理、2) 用語確立のための方法論的基盤の整備、3) 用語の体系化に向けた枠組みの検討、の活動を行なった。

JANS32 において、「看護学学術用語一現在・過去・未来」をテーマに交流集会を開催し、これまでの活動状況を報告するとともに、用語の定期的見直し、随時更新のためのシステムについて提案したところ、約 40 名の参加者を得て、活発な意見交換が行なわれた。

②国際活動の推進 〈山本理事〉 ※欠席により理事長代読

JANS32 において、交流集会「国際学会への参加～その醍醐味と躊躇～」を開催した。また、「グローバルに通用する看護研究のコアコンピテンシー育成」について検討し、学会 HP の「異文化看護データベース」を更新した。

③看護倫理の検討と啓発

看護倫理検討委員会 〈石井理事〉

平成 23 年度 (2011 年) に実施した「看護学研究における倫理的課題の整備に向けた実態調査」の集計と分析を行なった。

JANS32 において、交流集会「日本看護科学学会看護倫理検討委員会企画：看護学研究における倫理的問題にどう取り組むか！」を開催した。前記の調査について概要を報告するとともに、樽井正義先生（慶應義塾大学文学部教授）によるミニレクチャー「利益相反と倫理」を行ない、参加者は 88 名であった。

研究倫理審査委員会 〈高木理事〉 ※欠席により理事長代読

簡易審査 1 件について、メール会議を実施した。

④研究成果の蓄積と活用 〈吉沢理事〉

看護系学会等社会保険連合（看保連）関連では、診療報酬項目一次調査への協力にあたり、HP で回答を募集した。同連合の平成 25 年度助成金に対し、2 件の研究を推薦した。

「看護系若手研究者の研究状況および有効な育成・支援策に関する調査」を 40 歳未満の会員を対象に Web 方式で実施し、JANS32 の交流会で中間報告会を行ない、討議をした。本年 3 月末、同調査を成果物として印刷した。

本日（6 月 23 日）、実施する第 2 回 JANS セミナー「量的研究方法 高度看護実践のエビデンスを問う臨床研究」の企画と準備を行なった。

⑤ JANS セミナー 〈田代副理事長〉

若手研究者育成の一貫として、セミナーを実施した。

第 1 回は本年 1 月 27 日、聖路加看護大学にて、Dr. Kristin Lutz をメイン講師に迎え、「看護実践活動を明確化するための質的研究方法」をテーマに行なった。行事管理システムによる事前申込者が 331 名、当日来場者が 312 名であり、1,161,000 円の収入、348,005 円の収益を得た。今後の企画に生かすべく受講者アンケートを取り、希望するテーマとして質的研究方法、研究デザイン、看護記録の調査研究手法、プログラム開発技法、メタ分析、概念分析などがあつた。

第 2 回は本日 14 時 30 分から 17 時に開催する。テーマは「量的研究方法 高度看護実践のエビデンスを問う臨床研究」とし、山口拓洋先生（東北大学）、亀井

智子先生（聖路加看護大学）に講師をお願いした。

(6) 学術研究論文の表彰 〈石垣理事〉 ※欠席により理事長代読

表彰論文の選考基準を、優秀賞は「1) オリジナリティのあるアウトカムがある、2) 理論的あるいは実践的意義がある」、奨励賞は「現在の完成度は高くないが、将来性がある」と定めた。

2012 年 8 月 6 日の委員会で、優秀賞候補として和文誌から 11 編と英文誌から 5 編、奨励賞候補として和文誌から 8 編と英文誌から 3 編に絞り込んだ。理事会承認後、代議員に審査を依頼し、44 人から回答を得た結果、最終的に下記論文を候補として理事会に提出し、承認を得た。

〔優秀賞〕

亀井智子, 山本由子, 梶井文子, 中山優季, 亀井延明:
COPD 在宅酸素療法実施者への在宅モニタリングに基づくテレナーシング実践の急性増悪および再入院予防効果—ランダム化比較試験による看護技術評価— (和文誌 31(2) 24-33, 2011)

〔奨励賞〕

入江安子, 津村智恵子:

知的発達障害児を抱える家族のファミリーレジリエンスを育成するための家族介入モデルの開発 (和文誌 31(4) 34-45, 2011)

〔奨励賞〕

Hiromi ASAI:

Predictors of nurses' family-centered care practises in the neonatal intensive care unit (JJNS,8(1), 57-65, 2011)

(7) 学会組織の強化・発展

・将来構想に基づく新たな展開への準備 〈小松理事長〉

将来構想委員会の提言「日本看護科学学会の今後の発展とその方向性」に基づき、組織強化と発展を目指し、2 年間の時限的委員会として、「学術振興事業検討委員会」を立ち上げた。理事会との連携のもと、外部委員として古在豊樹先生（千葉大学名誉教授、NPO 植物工場研究会理事長）、日本学術会議から太田喜久子先生、若手代表として西村ユミ先生を迎え、看護学の魅力を発信するための中長期目標と計画を検討する。

(8) 社会貢献活動 〈高橋理事〉

JANS32 で行なわれる市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェ各事業について、広報委員会の協力のもと、学会 HP と学術集会 HP で参加者募集、ポスター配布を行なった。市民フォーラムについてはさらに、学会 HP と YouTube 上に動画ビデオレターのダイジェスト版を掲載した。

2012 年 12 月 1 日、市民フォーラム『それぞれの「逝き方」そして「看取り」〜』を 240 名の参加者を得て開催して、関心の高いテーマとして好評を博した。

ナーシング・サイエンス・カフェは、『看護スペシャリストの活動から看護職の魅力に迫る！〜NHK「プロフェッショナル：仕事の流儀」に登場した専門看護師たちがやってくる〜』と題し、3 名の専門看護師を招き、講演後に中高生とフリートークをしてもらった。参加者は中高生 18 名、保護者 7 名、オブザーバー（学会参加者）39 名で、盛況であった。

(9) 広報活動 〈酒井理事〉

JANS32 広報活動において、学術集会企画委員会、社会貢献委員会との連携を強化した。学術集会の記録・保存方法の明文化、市民フォーラムおよびナーシング・サイエンス・カフェの広報媒体作成手順の明文化を行なった。

プレスリリースマニュアル作成、取材マニュアルの整備、取材申し込みからのフロー作成、取材申し込みフォームの整備を行ない、SNS を活用した広報活動の検討をした。また、学会 HP の情報更新を随時、行なった。

国際活動推進委員会との連携のもと、第 3 回 WANS（世界看護科学学会）学術集会の広報について準備をした。

(10) 災害看護支援事業 〈岡谷理事〉

平成 24 年度災害看護支援金による助成事業募集の結果、8 件の応募（総額 5,503,680 円）があり、以下の 4 件を採択した。（総額 2,818,240 円）

- 1) 都市部に避難した東日本大震災被災者への健康支援事業の実施（代表者：綾部明江氏）
- 2) 宮城大学看護学生・教職員による南三陸町に在住する高齢者への健康支援活動を行うためのシステムづくり（代表者：佐々木久美子氏）
- 3) 気仙沼市鹿折地区仮設住宅の家庭全戸訪問によ

る健康・生活調査（代表者：山本あい子氏）

- 4) 東日本大震災における被災地の看護職者の語りを通して看護実践内容を明らかにする（代表者：川島みどり氏）

同年 9 月末、中間報告を提出してもらい、事業の進捗状況を確認した。

また、本事業は日本看護系学会協議会（JANA）との共同事業であるため、平成 23 年度の最終報告書、収支報告書、平成 24 年度中間報告書を、JANA に提出した。

JANS32 にて、支援金を集めるための「ワンコイン募金」を行ない、2 日間で 134,100 円を得た。

本年 3 月初旬より、平成 25 年度災害看護支援金による事業募集を開始し、審査の結果、4 件（総額 160 万円）を採択したが、残額が 50 万円を下回っており、皆様のご協力をお願いしたい。

(11) 他機関との連携活動

①日本看護系学会協議会 〈田代副理事長〉

2012 年 6 月 12 日、平成 24 年度総会が慶應義塾大学・信濃町キャンパスで開催され、平成 23 年度活動報告と承認、同・会計報告と承認、平成 24 年度事業計画、同・予算案、平成 24～26 年度役員選挙結果報告が行なわれた。

同年 9 月 17 日、厚生労働省「医行為分類および教育基準に関する説明会」に関連し、JANA の緊急集会在慶應義塾大学で行なわれ、本学会から岡谷理事、上泉理事が出席した。厚労省の説明内容を代議員、会員に周知し、JANA の決定に従い、本学会として意見集約はしないこととした。

②看護系学会等社会保険連合 〈岡谷理事〉

2012 年 4 月 25 日、JNA ホールにて平成 24 年度看保連総会が開催され、平成 23 年度活動報告、決算報告・監査報告、平成 24 年度事業計画案・予算案、一般社団法人化に伴う定款(案)が承認された。

同年 9 月 24 日、臨時社員総会が開催され、正式名称が「一般社団法人 看護系学会等社会保険連合」となったことが報告された。また、会費の決め方、役員選出における透明性確保を今後、理事会で検討することとした。

同年 11 月 10 日に第 9 回、2013 年 2 月 13 日に第 10 回の三保連合同シンポジウムが行なわれ、看保連からは「診療報酬の適正評価のための看護ケア技術体

系化に向けた研究」について報告された。

平成 25 年度役員選挙が行なわれ、2 月 13 日の理事会で役員選任案を作成した。

同年 3 月 6 日の理事会で平成 25 年度研究助成申請の審議を行ない、応募総数 7 件中 4 件を採択した。本学会員の研究も採択された。

③日本看護系学会協議会 〈田代副理事長〉

日本学術会議ニュース・メールを役員に提供した。

④世界看護科学学会 〈山本理事〉 ※欠席により 理事長代読

世界看護科学学会 (WANS) のホームページを更新した。

⑤その他の機関 〈田代副理事長〉

2012 年 9 月 7 日、厚労省にて「看護師の特定能力の認証に関する医行為分類(案)と教育内容等基準(案)に関する説明会」が開催された。学会として意見の集約と提出を要請され、JANA の緊急集会後に決定することとした。

(12) 理事候補者選挙準備 〈萱間理事〉

平成 25 年選出理事候補者選挙を、2012 年 12 月 15 日公示、2013 年 1 月 15 日に「投票要領」および「書面申出書」発送、1 月 15～31 日に Web 選挙動作確認、2 月 7～28 日が Web 投票受付期間、2 月 25 日が投票用紙による受付締切、3 月 1 日に開票を行なった。当選者に当選通知および就任受諾書を発送し、受諾の確認を行なった。

(13) 30 周年記念事業 〈田代副理事長〉

「日本看護科学会誌」第 32 巻第 3 号 (2012 年 9 月) に、創立 30 周年記念号『これからの看護学による社会貢献』(pp. 1-21) を発刊した。この編集事業に際し、過去の学術集会会長に貴重な写真資料などの提供をいただいたが、寄せられた写真などの保管・活用と学会アーカイブス・システムの構築が今後の課題と考える。

【質疑応答】

○ JANS セミナーの開催地区について、関西で行なう予定はあるのか？

→ (小松理事長) 理事会に持ち帰って検討した

い。

○名誉会員の選抜の仕方について説明してほしい。

→ (小松理事長) 定款第 12 条の規定「名誉会員は、看護学の発展に多大の寄与をした者の中から、理事会及び社員総会の承認を得たものとする」に則って選出している。

○ナーシング・サイエンス・カフェの参加者が 18 名ということだが、今後、高校生への広報について、どのように考えているのか？

→ (高橋理事) 例年、学術集会の時期は、高校生は試験の関係で参加しにくい状況である。今回は中高生よりもオプザーバーが多く、テーマ自体が中高生向きだったのかという反省もある。社会貢献委員会としては、平成 25 年度までは、学術集会で行なう予定で広報の検討をしているが、平成 26 年度以降、これまで通りの開催がよいのか、回数を増やして各地で実施するのがよいのか、検討したいと考えている。

VI. 審議事項

1. 平成 24 年度決算の承認および会計監査の報告 (安酸理事)

議案書【資料 7】【資料 8】に基づき、説明がされた。なお説明に際し、1,000 円未満は切り捨てられた。

貸借対照表【資料 7-1】【資料 7-2】は学会の財務状況のバランスを表したものであり、本学会の資産は 88,080,000 円、負債は 22,501,000 円、正味財産は 65,579,000 円である。

正味財産増減計算書【資料 7-3】について、平成 24 年度の正味財産期末残高が 65,579,000 円と、前年度の 66,675,000 円に比して、約 109 万円のマイナスになっている。主因は、平成 23 年度に支払うべき JANS32 学術集会案内パンフレット制作費の請求が、平成 24 年度にずれ込んだことによる。よって、平成 23 年度は黒字であったが、両年度とも実質的にプラスマイナス 0 に近い状況であると考えており、基金の減少は下げ止まっている。

貸借対照表、貸借対照表内訳表、正味財産増減計算書、および正味財産増減計算書内訳表【資料 7-4】が内閣府提出用の書式で、正味財産増減計算書内訳表は事業目的別収支を表している。収益事業の広告販売事業の項目を下までたどった当期経常増減額は 9,285,000 円で、これが広告販売収益であり法人税課税対象となるが、公益目的事業会計の赤字幅が大きい (マイナス

16,187,000円)ため、収益を公益目的事業に振り替えることができるので、結果的に収益はなく法人税の課税はされていない。

財務諸表に対する注記【資料7-5】は、本決算書作成にあたり採用した会計基準や特定資産、指定正味財産等の内容を明記し説明したものである。

財産目録【資料7-6】は、2013年3月31日時点の流動資産(手許現金、預金など)、特定資産(選挙積立預金、災害看護支援資産など)、その他固定資産(什器備品、ソフトウェアなど)、固定負債(退職給付引当金)を示している。資産合計88,080,000円から流動負債合計20,316,000円と固定負債2,184,000円を引いた65,579,000円が、前項の正味財産期末残高と一致する。

平成24年度収支計算書【資料7-7】にある通り、当年度の事業活動収入合計は126,318,000円、事業活動支出合計は126,453,000円、差し引き135,000円の赤字だが、予算では5,013,000円の赤字を想定していたので、収支は改善している。資金の内部移動である投資活動収支を加味すると、当期収支差額は1,568,000円の黒字である。平成23年度決算の次期繰越収支差額は58,332,000円だったが、平成24年度決算では59,901,000円と、改善されてはいる。しかしながら設立当時の基金にはいまだ戻せていない。

災害看護支援事業収支報告書【資料7-8】は2012年の第32回学会総会での質問を受けて作成した表で、災害看護支援基金は本学会では特定資産として、分離して管理していることを示している。

●監査報告 〈小島監事、近藤監事〉

監査報告書【資料8-1】に基づき、報告がされた。

事業報告は法令および定款に従い法人の状況を正しく示し、財務諸表は法人の財産および損益の状況を重要な点において適正に示している、とのことであった。

続けて、牧真之介公認会計士事務所により作成された独立監査人の監査報告書【資料8-2】が読み上げられた。財務諸表について、独立監査人からも疑義はなかった、とのことであった。

以上の通り、平成24年度決算について、満場一致により承認された。

2. 理事選任案の承認 〈小松理事長〉

定款の規定により、理事の全員が本総会終結をもつ

て任期満了退任となるため、その改選について理事選任案【資料9】に基づき、説明がされた。

役員(理事)候補者選挙の結果、選挙管理委員会から理事会に提出された11名の理事候補者を含む15名の理事候補者を選任した。承認されれば、任期は平成25年(2013年)6月23日から平成27年(2015年)の定例社員総会までとなる。定款第23条第4項により、候補者ごとに信任投票を行なう決まりであり、お手元に配った投票用紙(マークシート)に可否を記入し、事務職員に提出していただきたい。

集計のためのお時間をいただくので、その間、次の議題に移る。

[この間、質疑応答が行なわれた]→VII. その他

信任投票の集計結果が発表された。

会場出席者数68名、有効委任状91名で、合計159名(その議決権数159個)。候補者ごとにその過半数(議決権数80個)の賛成が必要であるが、集計の結果、15名全員が過半数以上の賛成を得た。よって、理事選任案は承認された。選任された理事は、本日の定例社員総会の終了後に、正式に就任する。

なお、被選任者は以下の通りである。被選任者は、その就任を承諾した。

理事：麻原きよみ、阿保順子、萱間真美、グレッグ美鈴、小坂橋喜久代、酒井郁子、高橋眞理、武田祐子、田村やよひ、中山洋子、宮崎美砂子、安酸史子、山本あい子、吉沢豊予子、和住淑子 (50音順)

VII. その他

【質疑応答】

小松理事長より、以下の発言があった。

本年5月11日、第1回の学術振興事業検討委員会を開催したが、他分野からの意見について紹介したい。本学会は年に500人程度、会員が増えており、看護学は発展性のある成長分野と見られており、協業したい他分野の研究者も多いとのことである。

○他分野の人たちをどのように巻き込んでいくか、企画してはどうか？

○ケアサイエンスとしての看護分野の、社会への貢献を考えてはどうか？

→(小松理事長) 若手の育成について、「若手アカデミー」の企画が進んでいる。今後、若い

方々が実質的に学会のコアになって、実践できるように検討していきたい。

- 学術集会の若手メンバーについて、他分野の方々と共同での取り組みについて、ヨーロッパで盛んに行なわれている先例もあり、看護学でもその方向で参加することになった。そのような状況を踏まえ、今年度の学術集会で、下準備としてアイデアを出しあう予定だが、まだテーマが十分に練られていない。若手がセミナーをどう進めていくか、他分野との共同研究をどう進めたらよいか、現在の看護学の枠組みに対し専門領域に嵌まらないで実践されている方もおり、そのような場を作る提案も考えている。

→(小松理事長) JANS33の交流集会でも、多くの意見をいただきたい。

- (小松理事長) JANSセミナーのあり方についても、ご意見をいただきたい。

→(吉沢理事) 開催の仕方として、年に何回かのシリーズ企画、タイムリーなトピックごとなど。また、Webでのサテライト生中継なども考えているが、皆様のご意見を伺えたらと思っている。

→(田代副理事長) 開催したセミナーを記録し、後からWeb上で公開することも検討している。

- セミナーの開催について、地方のブロック単位で担当することを検討してほしい。そのようにして、JANSが身近に感じられる学会になってほしい。

→(小松理事長) 身近に感じていただける学会になるため、皆様のアイデアを提案してほしい。

- ジャーナルのことでお願いしたい。現在、論文の採択率があまりよくない。今後はオンラインジャーナルということで期待している。今後、論文の採択率が高まるのか教えていただきたい。多くの方が投稿し、アクセプトされることを願っている。

→(上泉理事) 採択率について、年間に投稿される論文のうち、採択件数は40%弱で、査読中が30%、残りが不採択で、約30%ということになる。こちらとしても採択率を上げるための取り組みが必要と考えている。特に採択された論文のうち、原著論文が30%を切っているのが問題で、対策の必要がある。また、博士

論文を提出する前に学会誌に採択されるという条件が求められることが増えている。Web上で随時公開となれば、それらの論文が速やかに公表されることにつながると考えている。数と質のバランスについても今後、検討しなければならない。

→(グレッグ理事) 英文誌の採択率も30%程度である。投稿論文191編のうち、日本人からの投稿数はトルコ、イランに次ぐ三番手であり、投稿を促進する対策として4月中旬、博士課程のある大学73校に、ホルツマー編集長との連名の手紙とサンプル誌を発送した。また、アクセプトされても一年半の間、冊子体には載らない論文もあり、今後、オンラインジャーナルとして刊行されることで、公開待ちの論文が減る。JJNSセミナーについても、参加者が編集委員と話ができるような機会を設け、日本からの投稿を増やす工夫をしていきたい。

Ⅷ. 閉会

以上をもって、すべての議事が終了したので、平成25年度6月定例(定時)社員総会が閉会し、議事進行が議長(小松理事長)から司会に戻された。

司会の田代副理事長より、最終的な会場出席者数68名、有効委任状91名、合計159名である旨が報告された。

定例社員総会終了後に開催された新役員による理事会において、新理事長として田村やよひ氏、副理事長として安酸史子氏が選定された旨の報告がなされた。

新理事長の挨拶(田村理事長)

小松理事長の後を引き継いで、公益社団法人日本看護科学学会の運営責任を担うことになった。よろしくお願ひしたい。2007年12月～2011年6月(平成19～23年)の2期、会計担当理事を務めたが、その時期は公益法人化に向けた定款改正や会計システムの変更等で、財政赤字の問題に対応できなかった。将来構想委員会を立ち上げて、JANS全体でどう取り組めばよいかを議論し、小松理事長に引き継いだことを思い出しながら、本日の総会の報告を伺っていた。この2年間、積極的に活動してくださったと感じている。学会誌のオンラインジャーナル化、若手支援、JANSセミ

ナーなど、新しい活動が芽生えている中で、私と14人の理事、2人の監事で進めていかなくてはならないことに、大きな責任を感じている。しかしながら、前期理事のうち8人が今期も理事を務めてくださることもあり、また、202名の社員の皆様のご協力を得ながら進めていきたいと考えている。JANSの発展、日本と世界の看護科学の発展につなげられるよう頑張っていきたい。引き続き、社員の皆様のご協力をお願いする。

この議事録が正確であることを証するため、議長お

よび議事録署名人により以上の議事を認め記名押印する。

平成25年(2013年)6月23日

議長 小松浩子 (印 省略)

議事録署名人 濱口恵子 (印 省略)

議事録署名人 野地有子 (印 省略)

※本議事録は学会誌掲載の便宜上、資料番号等の表現が原本と異なっている部分があります。

公益社団法人日本看護科学学会 役員・社員

(平成 25 年 4 月 30 日現在)

理事長 小松 浩子

副理事長 田代 順子

第 33 回学術集會会長

林 優子

第 34 回学術集會会長

鎌倉 やよい

第 35 回学術集會会長

小山 真理子

理事：石井 邦子，石垣 和子，岡谷 恵子，上泉 和子，萱間 真美，グレッグ美鈴，酒井 郁子，高木 廣文，高橋 眞理，安酸 史子，山本あい子，吉沢豊予子，和住 淑子

監事：小島 操子，近藤 潤子

名誉会員：飯田澄美子，稲岡 文昭，氏家 幸子，薄井 坦子，兼松百合子，高橋シュン，林 滋子，樋口 康子，日野原重明，松野かほる，山崎 智子

賛助会員：(株)医学書院，(株)南江堂，(株)日本看護協会出版会，(有)ヌーヴェルヒロカワ，(株)へるす出版

(以上，五十音順)

社 員

【北海道】

石井 トク
稲葉 佳江
奥宮 暁子
近藤 潤子
中村 恵子
野川 道子
平 典子
三国 久美
山田 律子
良村 貞子

【東北】

安藤 広子
石井 範子
角濱 春美
叶谷 由佳
上泉 和子
桑名 佳代子
小林 淳子
佐藤 富美子
塩飽 仁
徳永 恵子
中村 由美子
布施 淳子
吉沢 豊予子
リボウィッツよし子

【北関東】

安梅 勅江
牛久保美津子
大塚 眞理子
岡 美智代
川口 孝泰
小坂橋喜久代
佐伯 由香
高橋 照子
田村 やよひ

永井 優子
成田 伸
縄 秀志
二渡 玉江
松田 たみ子
水野 道代
森 千鶴

【南関東】

青木 きよ子
石井 邦子
石垣 和子
大島 弓子
大室 律子
岡田 忍
黒田 久美子
近藤 まゆみ
酒井 郁子
佐藤 紀子
佐藤 まゆみ
諏訪 さゆり
高橋 眞理
谷本 眞理子
中村 伸枝
野地 有子
三上 れつ
宮崎 美砂子
森 明子
山田 雅子
山本 利江
和住 淑子

【東京】

秋山 正子
麻原 きよみ
有森 直子
井部 俊子
江本 リナ

及川 郁子
数間 恵子
金井 PAK 雅子
萱間 真美
河口 てる子
川村 佐和子
小松 浩子
坂本 すが
佐藤 エキ子
志自岐 康子
高木 廣文
武井 麻子
田代 順子
田中 美恵子
筒井 眞優美
水流 聡子
鶴田 恵子
野末 聖香
濱口 恵子
菱沼 典子
福井 トシ子
操 華子
宮本 眞巴
山本 則子

【甲信越】

阿保 順子
内田 雅代
小林 康江
清水 嘉子
征矢野あや子
中込 さと子
堀内 ふき
渡辺 タミ子
渡辺 みどり

【北陸】

稲垣 美智子

上野 栄一
川島 和代
北岡 和代
紺家 千津子
西村 眞実子

【東海】

明石 恵子
浅野 みどり
安藤 詳子
市江 和子
大津 廣子
大西 和子
片岡 純
勝原 裕美子
鎌倉 やよい
紙屋 克子
小島 操子
小西 美智子
小松 万喜子
奈良間 美保
野口 眞弓
藤井 徹也
藤本 栄子
村本 淳子
百瀬 由美子
渡邊 順子

【近畿】

青山 ヒフミ
荒尾 晴恵
井上 智子
上野 昌江
岡谷 恵子
片田 範子
勝田 仁美
金川 克子
我部山キヨ子

北村 愛子
グレッグ美鈴
黒江 ゆり子
坂下 玲子
末原 紀美代
鈴木 志津枝
高田 早苗
高見沢恵美子
田中 京子
玉木 敦子
田村 恵子
近澤 範子
西村 ユミ
二宮 啓子
任 和子
野並 葉子
早川 和生
林 千冬
林 優子
前原 澄子
牧本 清子
町浦 美智子
山本 あい子

【中国・四国】

畦地 博子
池添 志乃
猪下 光
植田 喜久子
小笠原 知枝
小野 ミツ
國方 弘子
久保田 聡美
新道 幸恵
關戸 啓子
多田 敏子
田中 マキ子

津島 ひろ江
時長 美希
長戸 和子
中野 綾美
野嶋 佐由美
深井 喜代子
宮腰 由紀子
森下 利子
森下 安子
山勢 博彰
山田 覚

【九州・沖縄】

石原 逸子
井上 範江
宇座 美代子
浦田 祥子
奥 祥子
小田 正枝
嘉手苅 英子
川本 利恵子
北原 悦子
金城 祥教
草間 朋子
斉藤 ひさ子
田中 美智子
中尾 久子
鳩野 洋子
東 サトエ
森田 敏子
安酸 史子
矢野 正子
山勢 善江
李 節子

(以上，202 名)
地区別・五十音順)

公益社団法人 日本看護科学学会 理事会活動状況

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

平成24年度第1回理事会

日 時：平成24年5月13日(日) 13:00～17:00

場 所：日本看護科学学会事務所(文京区本郷3-37-3
富士見ビル201号室)

出席者：理事14名、監事2名、第32回学術集會会長

〈報告事項〉

- 平成23年度第6回理事会議事録
- 平成23年度1月書面理事会議事録
- 平成23年度2月書面理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第32回日本看護科学学会学術集會(JANS32)の準備状況
2. 第33回日本看護科学学会学術集會(JANS33)の準備状況
3. 決算報告および監査報告の承認
4. 受取会費の配分率変更について
5. 各委員会における事業の進捗状況
 - 1) 総務委員会からの報告
 - 2) 和文誌編集委員会からの報告
 - 3) 英文誌編集委員会からの報告
 - 4) 研究・学術情報委員会からの報告
 - 5) 国際活動推進委員会からの報告
 - 6) 看護学学術用語検討委員会からの報告
 - 7) 看護倫理検討委員会からの報告
 - 8) 社会貢献委員会からの報告
 - 9) 表彰論文選考委員会からの報告
 - 10) 広報委員会からの報告
 - 11) 研究倫理審査委員会からの報告
 - 12) 災害看護支援事業専門委員会からの報告
 - 13) 30周年記念誌編纂委員会からの報告
 - 14) 他団体との連携について
 - ・日本看護系学会協議会、日本学術会議、その他
 - ・看護系学会等社会保険連合(看保連)
 - ・世界看護科学学会
6. 6月定例社員総会の資料および役割分担の確認
7. 財務基盤改善に関する中長期的施策について
 - 1) 学術集會に関する費用
 - 2) Web会議システム導入の検討

8. 受勲についての報告 …Holzemer先生(旭日中綬章)、前原澄子先生(瑞宝中綬章)
9. 入会希望者の承認
10. その他

書面理事会

日 時：平成24年5月16日(水)

(理事会の決議があったものとみなされた日：平成24年5月18日)

出席者：理事15名

〈議案〉

本年6月4日、日本総領事館(在ニューヨーク)におけるホルツマー先生の旭日中授章授与式へ理事長が出席すること

第2回理事会

日 時：平成24年6月10日(日) 10:30～12:30

場 所：慶應義塾大学 信濃町キャンパス 孝養舎4階401教室

出席者：理事13名、監事2名、第32回学術集會会長、第33回学術集會会長

〈報告事項〉

- 平成24年度第1回理事会議事録
- 平成24年度5月緊急書面理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第32回日本看護科学学会学術集會の準備状況
2. 第33回日本看護科学学会学術集會の準備状況
3. 社員総会の資料と役割分担の最終確認およびリハーサル
4. 各委員会における事業の進捗状況(議事のある委員会のみ)
5. 入会希望者の承認
6. その他

第3回理事会

日 時：平成24年9月2日(日) 13:00～17:00

場 所：日本看護科学学会事務所(文京区本郷3-37-3
富士見ビル201号室)

出席者：理事13名、監事2名、第32回学術集會会長、

第 33 回学術集會会長

〈連絡事項〉

- 委員会活動報告および活動計画・予算案の提出について
- 2012 年／学術集會開催時期の各会議について

〈報告事項〉

- 平成 24 年度 6 月定例社員総会議事録
- 平成 24 年度第 2 回理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第 32 回日本看護科学学会学術集會の準備状況
2. 第 33 回日本看護科学学会学術集會の準備状況
3. 第 35 回日本看護科学学会学術集會 (JANS35) の候補者選出
4. 学術集會関連提案 (プログラム集作成業者の固定化)
5. 名誉会員候補の推薦
6. 各委員会における事業の進捗状況
7. 11 月社員総会の議事次第(案)
8. 第 32 回学会総会の議事次第(案)
9. 内閣府関連提案
 - ・受取会費配分率変更のシミュレーション
 - ・連携事業から公益目的事業へのカテゴリー変更
10. 入会希望者の承認
11. ホルツマー先生受勲祝賀会
12. 理事会主催研究法セミナー
13. Web 会議システムの導入 (トライアル実演)
14. その他

第 4 回理事会

- 日 時：平成 24 年 10 月 14 日 (日) 13:00～17:00
 場 所：日本看護科学学会事務所 (文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室)
 出席者：理事 13 名, 監事 1 名, 選挙管理委員長, 第 32 回学術集會会長代理, 第 33 回学術集會会長

〈連絡事項〉

- 〈2012 年 11 月社員総会その他 出欠〉 一元管理表
学術集會の役員控室について
- Web 会議システム (SaasBoard) 使用マニュアル

〈報告事項〉

平成 24 年度第 3 回理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第 32 回日本看護科学学会学術集會の進捗状況
2. 第 33 回日本看護科学学会学術集會の進捗状況
3. 選挙管理委員会からの報告
4. 第 35 回日本看護科学学会学術集會の会長承認
5. 社員総会と学会総会について
 - (1) 社員総会と学会総会の資料確認
 - 1) 公益目的事業の変更認定申請について
 - 2) 平成 25 年度事業計画の承認
 - 3) 平成 25 年度予算案の承認
 - (2) 社員総会と学会総会の進行と役割分担
 - (3) 社員総会欠席者の議決権の行使方法について
6. 各委員会における今年度予算執行状況および平成 25 年度事業計画・予算案
7. 各委員会における事業の進捗状況
8. 入会希望者の承認
9. 理事会主催研究法セミナー
10. その他

第 5 回理事会

- 日 時：平成 24 年 11 月 29 日 (木) 14:30～16:30
 場 所：聖路加看護大学 1 号館 1 階会議室 (中央区明石町 10-1)
 出席者：理事 15 名, 監事 2 名, 第 32 回学術集會会長

〈報告事項〉

平成 24 年第 4 回理事会議事録

〈審議事項〉

1. 第 32 回日本看護科学学会学術集會会長からの報告
2. 社員総会資料の最終確認
3. 社員総会／役割分担シナリオの最終確認
4. 学会総会資料の最終確認
5. 学会総会／役割分担シナリオの最終確認
6. 平成 25 年度の行事日程 (第 1 回・第 2 回理事会, 定例社員総会)
7. 各委員会における事業の進捗状況
8. 理事会主催セミナーについて
9. 入会希望者の承認

10. その他

平成 24 年度第 6 回理事会

日 時：平成 25 年 2 月 17 日（日）13:00～16:40

場 所：日本看護科学学会事務所（文京区本郷 3-37-3
富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 13 名（うち 1 名 Web 参加）、監事 1 名、
第 32 回学術集會会長、第 33 回学術集會会
長

〈連絡事項〉

委員会事業報告および経費支払伝票の提出について
（6 月定例社員総会の資料として）

〈報告事項〉

平成 24 年度第 5 回理事会議事録

平成 24 年度 11 月社員総会議事録

第 32 回学会総会議事録

〈審議事項〉

1. 第 32 回日本看護科学学会学術集會の最終報告
2. 第 33 回日本看護科学学会学術集會の準備状況
3. 理事会からの報告
 - 1) 学術振興事業検討委員会の構成案

- 2) 内閣府への申請状況 …会費配分率変更、事業の
カテゴリー変更
- 3) 理事候補者選挙の進捗状況
- 4) JANS セミナー（1 月 27 日）の実施報告
- 5) 次回 JANS セミナー（6 月）の企画（テーマ、
担当理事）
- 6) 平成 25 年度 6 月定例社員総会の会場とスケ
ジュール
 - ・平成 25 年 6 月定例社員総会の開催について
（平成 25 年 6 月定例社員総会欠席者の議決
権の行使方法について）
- 7) 申し合わせの変更 …学術集會開催、会計（第
5 回理事会承認済）
- 8) 災害看護支援事業報告（事業、収支）に関す
る JANA からの要請
4. 各委員会における今年度予算執行状況（～2013
年 1 月）
5. 各委員会における事業の進捗状況
6. 入会希望者の承認
7. その他

公益社団法人 日本看護科学学会 社員総会活動状況

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

平成24年6月社員総会

日時：平成24年(2012年)6月10日(日)14:00～
17:00

場所：慶應義塾大学 信濃町キャンパス孝養舎 2
階 202 教室

東京都新宿区信濃町35 TEL：03-3353-1211

総社員数：202名

出席社員数：167名(うち委任状 111名)

I. 開会

II. 理事長挨拶

III. 第32回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 報告事項

1. 理事会報告および社員総会報告
2. 総務報告
3. 平成23年度事業報告
 - (1) 第31回日本看護科学学会学術集会開催
 - (2) 第32回・第33回日本看護科学学会学術集会準備
 - (3) 和文誌の発行
 - (4) 英文誌の発行
 - (5) 看護学学術振興対策
 - ①看護学学術用語の検討
 - ②国際活動の推進
 - ③看護倫理の検討と啓発
 - ④研究成果の蓄積と活用
 - (6) 学術研究論文の表彰
 - (7) 学会組織の強化・発展
 - ・将来構想に基づく新たな展開への準備
 - (8) 社会貢献活動
 - (9) 広報活動
 - (10) 他機関との連携活動
 - ①日本看護系学会協議会
 - ②看護系学会等社会保険連合
 - ③日本学術会議
 - ④世界看護科学学会
 - ⑤その他の機関
 - (11) 役員選挙

(12) 30周年記念事業

VI. 審議事項

1. 平成23年度決算の承認および会計監査の報告
2. 財務基盤安定化に向けての取り組み

VII. その他

VIII. 閉会

平成24年11月社員総会

日時：平成24年11月29日(木)18:00～21:00

場所：聖路加看護大学 1号館3階302教室

東京都中央区明石町10番1号

TEL：03-3543-6391

総社員数：202名

出席社員数：163名(うち委任状95名)

I. 開会

II. 理事長挨拶

III. 第32回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 報告事項

1. 理事会報告および社員総会報告
2. 総務報告
3. 委員会活動報告
 - 1) 総務委員会
 - 2) 和文誌編集委員会
 - 3) 英文誌編集委員会
 - 4) 研究・学術情報委員会
 - 5) 国際活動推進委員会
 - 6) 看護学学術用語検討委員会
 - 7) 看護倫理検討委員会
 - 8) 社会貢献委員会
 - 9) 表彰論文選考委員会
 - 10) 広報委員会
 - 11) 研究倫理審査委員会
 - 12) 災害看護支援事業専門委員会
 - 13) 30周年記念誌編纂委員会
 - 14) JANSセミナー(理事会主催 研究法セミナー)開催の企画
 - 15) 他機関との連携活動

- ①日本看護系学会協議会
- ②看護系学会等社会保険連合
- ③日本学術会議
- ④世界看護科学学会
- ⑤その他の機関

VI. 審議事項

- 1. 財務基盤安定化に向けての取り組みについて
- 2. 公益目的事業の変更認定申請について

- 3. 公益社団法人日本看護科学学会平成 25 年度事業計画案の承認
- 4. 公益社団法人日本看護科学学会平成 25 年度予算案の承認
- 5. 名誉会員の承認
- 6. 第 35 回日本看護科学学会学術集会会長の承認

VII. 閉会

総務報告

1. 会員推移(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

1) 正会員数増減

- (1) 平成24年4月1日正会員数
6,354名=平成24年3月31日正会員数6,667名
-平成24年度資格喪失者313名
(自主退会145名, 会費未納168名)
- (2) 平成24年度入会者
691名=新規入会632名+再入会59名
- (3) 平成24年度死亡喪失者 8名

2) 賛助会員増減

なし

3) 名誉会員増減

- (1) 平成24年度承認 1名 薄井坦子

(2) 平成24年度死亡喪失者 1名 見藤隆子

4) 平成25年3月31日現在 会員数

正会員 7,037

名誉会員 11

高橋シュン 山崎智子 松野かほる 氏家幸子
兼松百合子 林滋子 飯田澄美子 日野原重明
稲岡文昭 樋口康子 薄井坦子

賛助会員 5

(株)医学書院 (株)へるす出版 (株)南江堂

会員総数 7,053

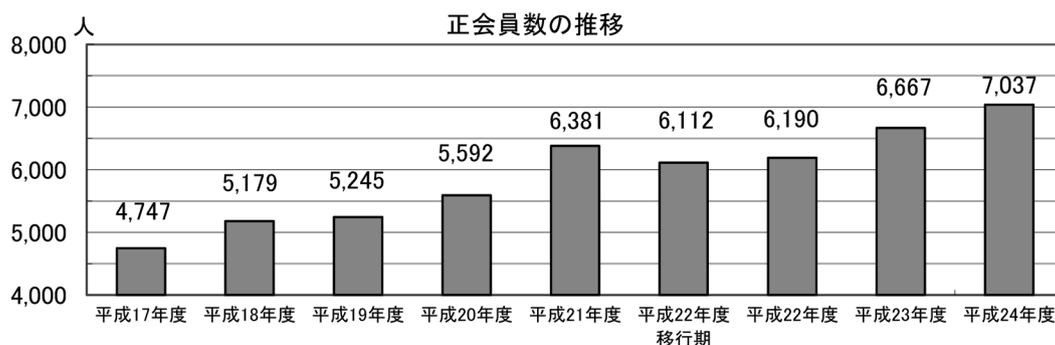
(株)日本看護協会出版会

(有)ヌーヴェルヒロカワ

2. 地区別正会員数

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数
北海道 307	北海道	307	北陸 189	富山	47	九州・沖縄 743	福岡	364
東北 467	青森	134		石川	96		佐賀	33
	岩手	49	福井	46	長崎		48	
	宮城	129	東海 672	静岡	148		熊本	69
	秋田	58		愛知	285		大分	46
	山形	57		岐阜	91		宮崎	55
福島	40	三重	148	鹿児島	46			
北関東 558	茨城	120	近畿 1139	滋賀	75		沖縄	82
	栃木	102		京都	179		宛先不明者	30
	群馬	112		大阪	415		合計	7,037
埼玉	224	兵庫		377	・名誉会員 11 ・賛助会員 5			
南関東 784	千葉	316		奈良		69		
	神奈川	468	和歌山	24				
甲信越 289	山梨	80	中国・四国 818	鳥取		33		
	長野	116		島根		50		
東京 1041	新潟	93		岡山		150		
	東京都	海外		広島		195		
				山口		47		
徳島	59							
香川	69							
愛媛	71							
高知	144							

3. 正会員数の推移(年度別)



平成 24 年および 25 年選挙管理委員会報告

選挙管理委員会 太田勝正（委員長）、小幡光子、武田利明、香春知永、藤田佐和

定款第 27 条にもとづく役員（理事）候補者の選出を行ったので、その経過等を報告する。

1. 理事候補者選挙について

平成 25 年度に就任する理事候補者の選挙（監事については任期途中のため選挙を実施せず）を下記の要領で行った。なお、本選挙は、初めての試みとして Web を利用して行われた（以下、Web 選挙）。

1) 選挙日程

- ・ 公示：平成 24 年 12 月 15 日（土）
- ・ Web 選挙のための ID、パスワード、および、投票要領の送付：平成 25 年 1 月 15 日
- ・ Web 選挙の動作確認：平成 25 年 1 月 15 日（火）から 31 日（木）までの 17 日間
 - これに併せて、従来の投票用紙を用いた郵送による選挙方法（以下、紙投票）の希望について意向確認を行った。
- ・ Web 選挙の予告：平成 25 年 2 月 1 日（金）（本学会 HP に）
- ・ Web 選挙の開始：平成 25 年 2 月 7 日（木）9:00
 - 紙投票については、投票用紙を平成 25 年 2 月 4 日（月）に発送し、同 2 月 25 日（月）（当日消印有効）までに到着した分を有効とした。
- ・ Web 選挙の締め切り：平成 25 年 2 月 28 日（木）23:59 まで
- ・ 開票：平成 25 年 3 月 1 日（金）11:00
- ・ 開票立会人：前田樹海先生（東京有明医療大学看護学部）
- ・ 役員候補者名簿および次点者名簿の理事会への提出：平成 25 年 5 月 12 日（日）

2) 投票結果について

締め切り期間までに届いた紙投票については、有効性を確認の後、投票者が判らないようにシャッフリングをし、Web 選挙の代理投票システムを用いて投票結果を Web 選挙に集約した。その後、Web 選挙システムにより、開票作業を行った。

- ・ 有権者数（代議員数） 202 名
- ・ 理事候補者被選挙数 198 名（3 期連続理事 2 名および監事 2 名を除く）
- ・ 投票総数 142 件（紙投票 2 件を含む）
- ・ 投票率 70.3%
- ・ 有効数 理事 142 件（無効票 0 件）

3) 理事候補者の当選通知と理事候補者就任の承諾の手続きについて

上位 11 名の得票者を当選者とし、併せて、次点者リストを 50 位まで作成した。

当選者に、理事候補者就任の諾否を確認した結果、一部に不承諾の回答があり、順次繰り上げ当選の手続きを行い、11 名の理事候補者について理事会に提出し、承諾を得た。

4) 理事候補者選挙の総括

- ・ 紙投票を希望したものは 202 名中 4 名であり、Web 選挙の運用に特段の問題は無かったと思われた。
- ・ Web 選挙の期間は約 3 週間であったが、投票率ははじめの 1 週間で約 40%、次の 1 週間で約 55%と出足が鈍かった。このため、4 回のリマインドを登録メールアドレス宛に送り、最終的に約 70%の投票率となった。
- ・ 前回の理事候補者選挙（従来型の紙投票）の最終投票率の約 80%には及ばなかったが、概ね予想通りの投票率となり、今後の選挙においても Web 選挙は運用可能であろうと思われた。
- ・ 当選者からの理事候補者就任辞退の回答が、選挙によって選ばれる人数（11 名）の 50%を超える数となった。これは、前回の理事選挙でも同様の結果であった。
- ・ 今回の Web 選挙の結果を踏まえて、今後の代議員選挙および役員候補者選挙の進め方について、更なる検討を期待する。

以上

公益社団法人 日本看護科学学会 平成 24 年度委員会名簿および分掌事項

委員会	役職	氏名	会務分掌	委員会開催数
総務	委員長	菅間 真美 安酸 史子 濱口 恵子	・ 会員管理 ・ 入会審査 ・ 学会事務所の運営（総務会にて検討）	入会審査 11 回 (H24.4/9, 5/7-5/11, 5/28-5/30, 6/5-6/8, 7/30-7/31, 8/28, 8/31, 10/10-10/14, 11/21-11/22, 11/27, H25.2/12-2/15)
	委員長	上泉 和子 安酸 史子 荒尾 晴恵 宇佐美しおり 黒江 ゆり子 齋藤 やよい 坂下 玲子 鈴木 真知子 竹崎 久美子 田中 美智子 中村 由美子 中村 順子 成田 伸 野澤 美江子 野地 有子 林 千冬 前田 樹海 眞島 朋子 木村 恵美子	・ 会誌の発行（年 4 号以上） ・ 学会誌への投稿の促進 ・ 査読システムの改良 ・ 論文電子化に伴う著作権の整備（機関リポジトリへの対応） ・ 表彰論文選考への参画 ・ オンラインジャーナルの推進	2 回 (H24.4/14, H25.2/2)
和文誌編集	編集長	William L. Holzemer	・ 英文誌の発行（年 2 号） ・ 査読システムの整備 ・ 投稿論文促進のための広報活動 ・ 和文誌編集委員会との協働 ・ 表彰論文選考への参画 ・ オンラインジャーナルの推進 ・ 認知度向上のための活動	3 回 (H24.4/7, 10/27, H25.3/16) 別途、Skype による 小委員会 3 回 (H24.6/7, 8/3, H25.2/6)
	委員長	グレッジ美鈴 安部 陽子 石原 逸子 和泉 成子 江本 リナ 岡田 彩子 小澤 三枝子 北岡 和代 佐伯 由香 佐々木美奈子 鈴木 英子 田代 順子 永田 智子 中村 美鈴 野口 眞弓 深井 喜代子 堀内 成子 眞壁 玲子 松尾 ミヨ子 丸山 昭子 江藤 宏美		
英文誌編集	編集長	William L. Holzemer	・ 英文誌の発行（年 2 号） ・ 査読システムの整備 ・ 投稿論文促進のための広報活動 ・ 和文誌編集委員会との協働 ・ 表彰論文選考への参画 ・ オンラインジャーナルの推進 ・ 認知度向上のための活動	3 回 (H24.4/7, 10/27, H25.3/16) 別途、Skype による 小委員会 3 回 (H24.6/7, 8/3, H25.2/6)
	委員長	グレッジ美鈴 安部 陽子 石原 逸子 和泉 成子 江本 リナ 岡田 彩子 小澤 三枝子 北岡 和代 佐伯 由香 佐々木美奈子 鈴木 英子 田代 順子 永田 智子 中村 美鈴 野口 眞弓 深井 喜代子 堀内 成子 眞壁 玲子 松尾 ミヨ子 丸山 昭子 江藤 宏美		
研究・学術情報	委員長	吉沢 豊予子 岡谷 恵子 柏木 聖代 河野 あゆみ 高見沢恵美子 奈良間 美保 深堀 浩樹 宮下 光令 跡上 富美	・ 内外の看護学研究に関する情報の収集、整理、発信 ・ 研究成果が診療報酬に適切に反映できるような活動の推進	1 回 (H24.7/28)
	委員長	山本 あい子 近藤 暁子 酒井 郁子 下平 唯子 南 裕子 長坂 桂子	・ 国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築 ・ 世界看護科学学会事務局業務	1 回 (H24.10/27) web 会議 1 回 (H24.4/18)
国際活動推進	委員長	山本 あい子 近藤 暁子 酒井 郁子 下平 唯子 南 裕子 長坂 桂子	・ 国際的な看護学研究機関とのネットワークの構築 ・ 世界看護科学学会事務局業務	1 回 (H24.10/27) web 会議 1 回 (H24.4/18)

委員会	役職	氏名	会務分掌	委員会開催数
看護学術用語検討	委員長	和住 淑子 大島 弓子 大森 純子 小板橋喜久代 佐藤 和佳子 手島 恵 長戸 和子	・看護学術用語に関する現状と展望の検討	4回 (H24.6/3, 8/10, 11/23, H25.2/10)
	会計	石丸 美奈		
看護倫理検討	委員長	石井 邦子 亀井 智子 野村 美香 宮林 郁子 宮脇 美保子	・研究者のモラル向上に向けた活動 ・看護学研究における倫理審査体制の構築 ・看護学が関連する研究・教育・臨床における倫理的課題の整理および即時的対応 ・看護学が関連する倫理的社会的現象に対する情報収集・提供と、学会としての対応案の検討	2回 (H24.8/6, 10/9) web会議1回 (H25.3/26)
	会計	川城 由紀子		
社会貢献	委員長	高橋 眞理 近藤 まゆみ 佐々木 綾子 武田 祐子 永井 優子 リポウィッツ よし子	・一般市民に向けた活動 ・看護学を通じた社会への貢献およびその方策の検討・普及 ・学術集会開催時の他に社会貢献の実績を残す（市民公開講座、出版等） ・次世代の育成事業	2回 (H24.7/15, 12/1) Skypeによる会議1回 (H25.3/28)
	会計	小島 ひで子		
表彰論文選考	委員長	石垣 和子 上泉 和子 グレッグ美鈴 浅野 みどり 山本 則子	・和文誌・英文誌投稿論文からの表彰候補論文選考作業の円滑な運営 ・学会としての表彰論文の推薦 ・看護学への功績（学問の体系化等）のある人への表彰についての検討 ・他団体からの表彰に該当する候補者の推薦	2回 (H24.5/13, 8/6) Skypeによる会議1回 (H24.10/12)
	会計	川島 和代		
広報	委員長	酒井 郁子 清水 安子 林 直子 藤田 冬子 渡辺 かづみ 綿貫 成明	・ホームページ（JANS/WANS）の維持・管理・改善 ・学会活動の広報（委員会成果物のHP掲載等） ・学術集会の広報（プレスリリース等） ・WANS 本部・WANS 学術集会の広報 ・学術集会の記録	2回 (H24.10/19, H25.3/29)
	会計	黒河内 仙奈		
研究倫理審査	委員長	高木 廣文 勝原 裕美子 佐居 由美	・学会員による人を対象とした看護研究が、倫理的配慮のもとに行われるかどうかを審査	メール会議
外部委員	掛江 直子			
外部委員	中村 通子 森山 幹夫			
災害看護支援 事業専門	委員長	岡谷 恵子 高橋 眞理 太田 喜久子 田中 美恵子 田村 やよひ	災害看護活動を支援するために以下の事項について協議及び審議を行う。 ・募金に関する事項 ・広報に関する事項 ・災害看護支援金の申請者等の選定の審査に関する事項 ・その他必要な事項	1回 (H24.5/7)
30周年記念誌編集	委員長	田代 順子 小松 浩子 萱間 真美 安酸 史子 上泉 和子 グレッグ美鈴 山本 あい子	・本学会 30 周年の記念事業の一貫として、記念誌を計画し編集する。 (平成 25 年 3 月 31 日をもって活動終了)	2回 (H24.6/22, 7/26)
学術振興事業検討	委員長	小松 浩子 太田 喜久子 田代 順子 西村 ユミ 吉沢 豊予子 古在 豊樹	・今後の 40 周年に向けて、公益社団法人としての学術振興の中・長期的活動方針を企画検討する。 ・公益社団法人としての社会貢献に向けた公益事業を検討する。 ・アンブレラ学会として看護学の発展への貢献活動を検討する。 (平成 25 年 4 月 1 日より活動開始)	
選挙管理	委員長 副委員長 書記 庶務 庶務補佐	大田 勝正 小幡 光子 武田 利明 香春 知永 藤田 佐和	・理事会からの委嘱により組織し、代議員および役員候補者選挙を行う。	4回 (H24.7/23, 9/20, H25.2/1, 3/1)

公益社団法人 日本看護科学学会 平成24年度事業報告

[平成24年(2012年)4月1日～平成25年(2013年)3月31日]

(1) 第32回日本看護科学学会学術集会開催

- ・第32回日本看護科学学会学術集会(JANS32)を太田喜久子学術集会会長のもと、平成24年11月30日(金)から12月1日(土)の2日間、東京国際フォーラムにて開催した。
- ・メインテーマは「日本再生のとき、看護学の真価を問う」、参加者総数3,384名、演題数802題、交流集会37題、ランチョンセミナー9件、市民フォーラム『～それぞれの「逝き方」そして「看取り」』参加者数217名であった。

(2) 第33回・第34回日本看護科学学会学術集会準備

- ・第33回日本看護科学学会学術集会(JANS33)を林優子学術集会会長のもと、平成25年12月6日(金)から7日(土)の2日間、大阪国際会議場にて開催予定である。メインテーマは「看護の力で社会が変わる」である。
- ・第34回日本看護科学学会学術集会(JANS34)を鎌倉やよい学術集会会長のもと開催予定である。

(3) 和文誌の発行

- ・日本看護科学学会誌第32巻第2号(研究報告6編, その他1編), 第3号(研究報告7編, 短報1編), 第4号(原著3編, 研究報告3編, 総説2編, その他1編), 第33巻第1号(研究報告9編, その他1編)を刊行し, それぞれ会員6,875名, 7,071名, 7,070名, 7,070名に頒布した。和文誌編集委員会を2回(平成24年4月14日, 平成25年2月2日)開催した。
- ・和文誌web移行スケジュール(平成24年～平成27年)を検討し, 理事会にて承認を得た。平成24年度, 平成25年度は年4回の冊子発行+年4回の電子ジャーナル刊行, 平成26年度は年1回の冊子発行+電子ジャーナル刊行(随時, 論文単位で), 平成27年度は電子ジャーナル刊行(随時, 論文単位で)+印刷版の希望者への受益者負担による頒布とした。
- ・電子投稿での編集・査読作業を引き続き行い, 査読ガイドラインの改訂(オンラインによる引用の

書き方など)を行った。

- ・査読者増員をはかった(平成25年4月9日現在176名, 平成24年173名)。
- ・J-STAGEでの日本看護科学学会誌電子ジャーナルの利用状況の確認を行ない, ダウンロード数を把握した。
- ・多くの方々に学会誌を読んでほしいという趣旨から, 電子ジャーナル・文献ダウンロード提供サービスである, (株)メテオ(Medical Online)と, (株)医学書院(Medical Finder)の2社と契約手続きを完了した。
- ・第32回日本看護科学学会学術集会において, 「査読の質の向上を目指して」をテーマに交流集会を開催し, 120名以上の参加者で, 活発な意見交換があり, 本集会の満足度は“満足している・非常に満足している”が70%以上を占めた。

(4) 英文誌の発行

- ・Holzemer編集長来日のもと英文誌編集委員会を3回(平成24年4月7日, 10月27日, 平成25年3月16日)開催した。
- ・Japan Journal of Nursing Science Vol. 9 No. 1(2012年6月)およびVol. 9 No. 2(2012年12月)を発刊し, それぞれ6,635名, 7,080名に頒布した。
- ・投稿数の増加(平成24年の投稿数は191編)に伴い, 編集活動のタイムフレームの明確化, プライマリースクリーニング手順の確立, 早期不採択論文のメールテンプレートの作成など, 編集作業の効率化を行った。
- ・Author guidelinesの見直しと修正を実施した。
- ・平成26年からのonline only Journalへの移行を踏まえて, 平成25年3月よりJJNS Content Alert(New Articles)を会員一斉メールで月に一度, 配信することにした。それに伴い, JJNS閲覧の手引きをホームページに掲載した。
- ・平成24年10月27日に啓蒙活動としてのセミナー“Improving your success at publishing in English”を開催した。今年度から会員一斉メールで周知し, 行事管理システムを用いて申し込み

を行った。参加者は91名で、好評であった。

- ・平成23年度の impact factor は、0.200であった（平成24年7月発表による）。

(5) 看護学学術振興対策

①看護学学術用語の検討

- ・看護学学術用語検討委員会を4回（平成24年6月3日、8月10日、11月23日、平成25年2月10日）開催した。
- ・「看護学を構成する重要な用語集」をホームページで公開した。
- ・看護学学術用語を定期的に見直し、会員や他の看護系学会、他の学問領域の意見を聴取しながら、随時更新していく新たなシステムづくりに向け、①本学会におけるこれまでの看護学学術用語特定に関する活動の整理、②看護学学術用語確立のための方法論的基盤の整備、③看護学学術用語の体系化に向けた枠組みの検討、の3つの活動を行った。
- ・第32回日本看護科学学会学術集会において、「看護学学術用語—現在・過去・未来—」をテーマに交流集会を開催し、これまでの活動状況について報告するとともに、看護学学術用語を定期的に見直し、随時更新していく新たなシステムについて提案を行った。約40名の参加者があり、活発な討議、意見交換が行われた。

②国際活動の推進

- ・国際活動推進委員会を2回〔平成24年4月18日（web会議）、10月27日〕開催した。
- ・第32回日本看護科学学会学術集会において、交流集会「国際学会への参加～その醍醐味と躊躇～」を開催した。
- ・「グローバルに通用する看護研究のコアコンピテンシー育成」について検討した。
- ・異文化データベースを更新した。

③看護倫理の検討と啓発

看護倫理検討委員会

- ・看護倫理検討委員会を3回〔平成24年8月6日、10月9日、平成25年3月26日（web会議）〕開催した。

- ・平成23年度に実施した「看護学研究における倫理的課題の整備に向けた実態調査」の集計及び分析を行った。
- ・第32回日本看護科学学会学術集会において、交流集会「日本看護科学学会看護倫理検討委員会企画：看護学研究における倫理的問題にどう取り組むか！」を企画・開催した。プログラムは、①問題提起、②調査結果概要報告、③ミニレクチャー「利益相反と倫理」講師：樽井正義氏（慶應義塾大学文学部教授）、④討論であり、参加者は88名であった。

研究倫理審査委員会

- ・簡易審査1件について、メール会議を実施した。

④研究成果の蓄積と活用

- ・研究・学術情報委員会全体会議を1回（平成24年7月28日）開催した。
- ・看護系学会等社会保険連合（看保連）に2回参加した。
- ・平成26年度診療報酬改訂に向けての意向調査に回答した。
- ・看保連、診療報酬項目一次調査に対し、その内容についてHPで募集をかけ回答した。
- ・看保連平成25年度助成金に対し、日本看護科学学会から2研究を推薦した。
- ・「看護系若手研究者の研究状況および有効な育成・支援策に関する調査」を40歳未満の日本看護科学学会会員に対し、web調査で実施した。
- ・第32回日本看護科学学会学術集会交流会にて、若手調査の中間報告会を行った。グループワークを通し、現状問題、支援策について討議した。
- ・平成25年3月末、若手看護学研究者の研究実施状況に関する調査報告書を作成した。
- ・第2回JANSセミナーの企画を行った。

⑤JANSセミナー

- ・今期目標の一つである、「若手研究者育成」の一貫として、JANS理事会企画として公益事業を計画した。
- ・第1回目セミナーは、平成25年1月27日（日）に聖路加看護大学 アリス・C・セントジョン

資料 6

メモリアルホールに於いて開催した。テーマは、「看護実践活動を明確化するための質的研究方法」であった。

プログラムは、講演：Dr. Kristin Lutz／高度実践活動のための質的研究方法

(Qualitative Research & Advanced Practice Nursing)

特別講義：萱間真美／日本の看護系大学院における質的研究の教育

シンポジウム：高度看護実践家教育と研究方法論教育

柏木公一／電子カルテにおける概念化

田代順子／看護研究における概念化の教育

小松浩子／看護活動の概念化における質的研究の役割と課題

指定発言／Dr. Kristin Lutz

司会：吉沢豊予子，安酸史子

オンライン申込み者：会員 280，非会員 51，
合計 331 名

当日参加者：会員 262，非会員 50，合計 312 名

参加費：会員 3,000 円，非会員 6,000 円

収入は，1,161,000 円であり，支出は，812,995 円で，
収益は 348,005 円であった。

・第 1 回目セミナー参加者のメール・Fax によるアンケートによる全体評価

・65 名のセミナー参加者から回答を得た（回答率 20%）。回答者の内訳，教員 41 名（63%），大学院生 11 名（17%），実践家 11 名（17%），その他 3 名であった。

・評価は，講演は 86%，特別講義，97%，シンポジウム全体は，86% が良かったとまあ良かったと評価した。

・セミナーの申込み方法は 90%，会場は 88%，テーマは 94%，時間帯は 97% が良かった，まあ良かったと回答していた。

・今後のセミナーのテーマの希望に関しては，1) 質的研究方法についての継続（エスノグラフィや現象学等を含む），2) 研究デザイン，3) 看護記録に関する調査研究の手法，4) プログラム開発の技法，5) メタ分析，6) 概念分析，7) Synthesis，8) 看護のはたらきを政策に結び付けていくには，9) 高齢多死社会を支える

看護の役割と取組みの方向性，等の多くの要望が寄せられた。

・第 2 回 JANS セミナーを，平成 25 年 6 月 23 日の社員総会の後（14 時 30 分から 17 時），ベルサール神田にて，開催予定である。テーマは「量的研究方法 高度看護実践のエビデンスを問う臨床研究」である。

プログラムは，講演：山口拓洋先生／最近の臨床試験 研究デザインをどう組むか

看護への応用

講演：亀井智子先生／臨床看護学研究の実際 看護学の介入研究と評価

質疑応答：「看護における介入研究のゴールドスタンダードを目指して」

指定発言：西垣昌和

モデレーター：奈良間美保

参加費：会員 2,000 円，非会員 3,000 円

広報を 3 月 30 日より web 上で開始した。web 受付を 4 月 22 日（月）12 時より開始した。

(6) 学術研究論文の表彰

・表彰論文選考委員会を 3 回〔平成 24 年 5 月 13 日，8 月 6 日，10 月 12 日（スカイプによる会議）〕開催した。

・平成 24 年 5 月 13 日 13:00～16:00，八重洲倶楽部において選考基準を以下のように定め，委員間で候補論文の絞り込みを行うことにした。

優秀賞：①オリジナリティのあるアウトカムがある。

②理論的あるいは実践的意義がある。

奨励賞：現在の完成度は高くないが，将来性がある。

委員が平成 23 年掲載のすべての該当論文を採点して持ち寄ることにした。

・平成 24 年 8 月 6 日 14:00～東京大学において委員会を開催し（一部の委員はスカイプにて参加），委員による平成 23 年掲載の論文の採点結果を集計して検討し，優秀賞候補論文として和文誌 11 編及び英文誌 5 編，奨励賞候補論文として和文誌 8 編及び英文誌 3 編に絞り込んだ。

・理事会の承認を得た後，役員・社員に 10 月初旬を期限として上記候補論文の審査を依頼し，44

人から回答を得た。

- ・平成 24 年 10 月 12 日 17:00～19:00, スカイプによる第 3 回委員会を開催し, 開票結果から優秀賞候補論文, 奨励賞候補論文を作成して理事会に提出した。
- ・理事会の審議の結果, 以下の論文が優秀賞, 奨励賞として選出された。

優秀賞

亀井智子, 山本由子, 梶井文子, 中山優季, 亀井延明:

COPD 在宅酸素療法実施者への在宅モニタリングに基づくテレナーシング実践の急性増悪および再入院予防効果—ランダム化比較試験による看護技術評価—

日本看護科学会誌 31(2) 24-33, 2011.

奨励賞

入江安子, 津村智恵子:

知的発達障害児を抱える家族のファミリーレジリエンスを育成するための家族介入モデルの開発

日本看護科学会誌 31(4) 34-45, 2011.

奨励賞

Hiromi ASAI:

Predictors of nurses' family-centered care practises in the neonatal intensive care unit

Japan Journal of Nursing Science, 8(1), 57-65, 2011.

(7) 学会組織の強化・発展

将来構想に基づく新たな展開への準備

- ・将来構想委員会の提言に基づき, 学会組織の強化と発展をめざし新しい組織「学術振興事業検討委員会」を立ち上げた。2年間の時限的委員会として今後, 理事会との連携のもと外部委員を含め, 看護学を魅力ある学術として発信していくための新しい公益目的事業の中長期目標と計画を検討する予定である。

(8) 社会貢献活動

- ・社会貢献委員会を 3 回〔平成 24 年 7 月 15 日, 12 月 1 日, 平成 25 年 3 月 28 日 (スカイプ会議), メール会議を多数開催した。

- ・平成 24 年 7 月 15 日 (日), 第 1 回社会貢献委員会を開催し, 第 32 回日本看護科学学会学術集会開催時に行われる市民フォーラム, ナーシング・サイエンス・カフェ各事業の担当者を委員の中から決定し, 主な企画案を審議した。その後, 学術集会までに, 各事業についての概要, 講演者等を話し合い, 準備を整え, 詳細な内容を検討した。なお, 今年度から, 広報委員会の協力のもとに, 広報活動を強化し, 本学会 HP および学術集会 HP に参加者募集の掲載, ポスター配布の強化, さらに, 市民フォーラムに関しては, 本学会 HP と Youtube 上に動画ビデオレターダイジェスト版を掲載し, 広く参加者への呼びかけを実施した。
- ・平成 24 年 12 月 1 日 (土), 第 2 回社会貢献委員会を開催し, 両事業の最終打ち合わせを行った。
- ・平成 24 年 12 月 1 日 (土), 市民フォーラムは『それぞれの「逝き方」そして「看取り」〜』をテーマに, 3 名のパネリスト (ビデオレター 1 名を含む) によるパネルディスカッション形式で展開し, 約 240 名の参加者を得た。また, ナーシング・サイエンス・カフェは, 『看護スペシャリストの活動から看護職の魅力に迫る! ~NHK「プロフェッショナル:仕事の流儀」に登場した専門看護師たちがやってくる〜』をテーマに, 3 人の専門看護師の方には, ご講演後に中高生とのフリートークを進めていただき, 中・高校生 18 名, 保護者 7 名, オブザーバー (学会参加者) 39 名の参加であった。なお, 両プログラムとも, 終了時にアンケートを実施し, 両プログラムともに盛況であった。
- ・平成 25 年 3 月 28 日 (木), スカイプ会議を実施し, アンケート集計結果に基づく今年度 (平成 24 年度) 評価, 来年度 (平成 25 年度) 第 33 回学術集会企画案ならびに本委員会の今後の活動課題について検討した。

(9) 広報活動

- ・広報委員会を 2 回 (平成 24 年 10 月 19 日, 平成 25 年 3 月 29 日) 開催した。
- ・学術集会企画委員会との連携強化
 - ①プレスリリースマニュアルを作成した。
 - ②学術集会の記録・保存方法を明文化した。

- ③学術集会企画委員会広報担当との役割分担の明文化と周知。
- ④第 32 回日本看護科学学会学術集会に関連した広報活動を行った。
- ⑤第 33 回学術集会に関連した広報活動を行った。
- ・社会貢献委員会との連携強化
 - ①市民フォーラム広報媒体作成手順を明文化した。
 - ②ナーシング・サイエンス・カフェ広報媒体作成手順を明文化した。
- ・国際活動委員会との連携強化
 - ①第 3 回 WANS 学術集会の広報準備を行った。
- ・JANS 広報媒体の検討
 - ① SNS を活用した広報活動を検討し、メリットとデメリットを明確にした。
- ・取材マニュアルの整備
 - ①学会への取材の申し込みフォームを整えた。
 - ②取材申し込みからのフローを作成した。
- ・学会 HP の充実
 - ①随時内容の更新、整理を行った。

(10) 災害看護支援事業

- ・平成 24 年度災害看護支援金による助成事業の募集を行い、8 件の応募（助成希望額の総額は 5,503,680 円）があった。
- ・平成 24 年 5 月 7 日（月）に災害看護支援事業専門委員会を開催し、委員 4 名で 8 件について助成の可否を審査した。8 件の応募事業はすべて応募資格を満たしており、助成の対象となる事業であった。災害看護支援事業規程第 7 条並びに応募要項の採択基準に基づいて厳正に審査を行った結果、以下の 4 件を採択した。助成金の総額は、2,818,240 円（最高 995,000 円、最低 423,240 円）であった。
 - ①都市部に避難した東日本大震災被災者への健康支援事業の実施（代表者：綾部明江氏）
 - ②宮城大学看護学生・教職員による南三陸町に在住する高齢者への健康支援活動を行うためのシステムづくり（代表者：佐々木久美子氏）
 - ③気仙沼市鹿折地区仮設住宅の家庭全戸訪問による健康・生活調査（代表者：山本あい子氏）
 - ④東日本大震災における被災地の看護職者の語

りを通して看護実践内容を明らかにする（代表者：川島みどり氏）

- ・平成 24 年 9 月末には、事業の進捗状況について中間報告を提出してもらい、事業が順調に行われていることを確認した。
- ・本事業は日本看護系学会協議会（JANA）との共催で実施しているため、平成 23 年度助成事業の最終報告書、収支報告書及び平成 24 年度助成事業の中間報告書を JANA に提出した。
- ・第 32 回日本看護科学学会学術集会の 2 日間に、支援金を集めることを目的にワンコイン募金を実施した。2 日間で 134,100 円の募金が集まった。
- ・平成 25 年 3 月初旬に、平成 25 年度災害看護支援金による事業助成金申請の募集を開始した。

(11) 他機関との連携活動

①日本看護系学会協議会

- ・平成 24 年 6 月 24 日（日）、平成 24 年度総会が慶應義塾大学信濃町キャンパスにおいて開催され、出席した。総会において、(1) 平成 23 年度活動報告と承認、(2) 平成 23 年度の会計報告と承認、(3) 平成 24 年度事業計画、(4) 平成 24 年度予算案、(5) 平成 24–26 年度の役員選挙結果と新たな役員が決定した。
- 総会后、(1)「東日本大震災支援活動報告」、(2)「医学書院 看護系論文ポータルサイトについての説明会」があった。
- ・平成 24 年 9 月 17 日（月）厚生労働省の「医行為分類および教育基準に関する説明会」に関連して、日本看護系学会協議会の緊急集会在慶應義塾大学信濃町キャンパスにて開催された。本学会を代表して、岡谷理事、上泉理事が出席した。本学会は、この厚生労働省からの説明内容を代議員・会員に周知し、日本看護系学会協議会の決定に従い、本学会独自の意見集約はしないこととした。

②看護系学会等社会保険連合

- ・平成 24 年度は、理事会が 10 回、社員総会 1 回、臨時社員総会 1 回が開催された
- ・平成 24 年 4 月 25 日に JNA ホールにて平成 24 年度の看保連総会が開催された。総会では、平成 23 年度活動報告、決算報告・監査報告、平成 24

年度事業計画案および収支予算案について審議されいづれも承認された。

- ・また、一般社団法人化に伴う定款(案)について審議し、様々な意見が会員から出され、修正を加えたうえで承認された。
- ・平成24年9月24日に臨時社員総会が開催され、一般社団法人への登記完了と名称が「一般社団法人看護系学会等社会保険連合」となったことが報告された。臨時社員総会では主に「定款施行細則(案)」について審議が行われ、承認された。社員から会費のあり方及び決め方について見直しを要望する意見が出された。会員数に応じて額を決定する、一律の会費にする、会費の多寡に応じて議決権を決めてはどうかといった様々な意見が出された。総会では、法人化したことでもあるので、今後理事会で会費について検討し、新たな負担のあり方を平成25年度社員総会に提案することになった。
- ・「定款施行細則(案)」の役員選出についての条文に関して本学会理事会から意見提出を行っていたが、条文の文言の訂正はしないが、役員選出にあたっては透明性を確保するように工夫することを出席者全員に周知、了承された。
- ・平成24年11月10日に第9回、平成25年2月13日に第10回の三保連合同シンポジウムが開催された。いずれのシンポジウムも看保連からは「診療報酬の適正評価のための看護ケア技術体系化に向けた研究」の方向性と取り組み状況について報告された。
- ・平成25年度の役員選挙が行われ、平成25年2月13日の理事会で、平成25年度の社員総会に提案するために役員選任案を作成した。
- ・平成25年3月6日の理事会において、平成25年度研究助成申請の審議を行い、7件の応募の中から4件採択した。本学会員の研究も採択された。

③日本学術会議

- ・日本学術会議から提供のあった日本学術会議ニュース・メールを役員に提供した。

④世界看護科学学会

- ・第3回WANS学術集会@韓国 学会準備進捗状

況と支援内容を確認した。

- ・WANS (World Academy of Nursing Science) ホームページを更新した。

⑤その他の機関

- ・平成24年9月7日(金)、厚生労働省にて「看護師の特定能力の認証に関する医行為分類(案)と教育内容等基準(案)に関する説明会」が開催され、学会を代表して出席した。これまでにまとめられた医行為分類案と教育基準案に対して意見の提出要領の説明があった。
本学会からの意見を集約し、日本看護系学会協議会の集会后に決定することになった。

(12) 理事候補者選挙準備

- ・選挙管理委員会を4回(平成24年7月23日、9月20日、平成25年2月1日、3月1日)開催した。
- ・理事候補者選挙を以下の日程で行った。
- ・平成24年12月15日(土)理事候補者選挙公示、平成25年1月15日(火)理事候補者選挙投票要領および書面申出書発送、平成25年1月15日(火)~1月31日(木)Web選挙動作確認、平成25年2月7日(木)理事候補者選挙投票受付開始、平成25年2月28日(木)理事候補者選挙投票締切日、平成25年3月1日(金)理事候補者選挙開票を行った。
- ・理事候補者当選者に当選通知および就任受諾書を発送し、理事候補者への就任承諾の確認を行った。

(13) 30周年記念事業

- ・平成23年の30周年記念誌編纂委員会組織・企画・原稿依頼、原稿編集を経て、日本看護科学会誌第32巻第3号平成24年9月号に、創立30周年記念号：「これからの看護学による社会貢献」(1~21頁)を発刊した。
- ・本編集事業と合わせて、本学会アーカイブスとして、過去の学術集會会長に写真の提供を依頼した。返却の必要なものは、3月までに完了した。
- ・寄せられた写真等の保管・活用と学会アーカイブス・システムの構築は課題として検討の必要がある。

貸借対照表

平成 25 年 3 月 31 日現在

公益社団法人 日本看護科学学会

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	76,662,373	74,437,097	2,225,276
未収会費	1,380,000	1,672,000	△ 292,000
未収金	389,013	2,183,726	△ 1,794,713
たな卸資産	193,568	174,469	19,099
前払費用	1,786,835	1,328,294	458,541
流動資産合計	80,411,789	79,795,586	616,203
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産合計	0	0	0
(2) 特定資産			
選挙積立預金	1,362,252	1,987,601	△ 625,349
退職給付引当資産	2,184,239	1,580,208	604,031
寄附積立資産	20,000	300,000	△ 280,000
災害看護支援資産	2,085,957	3,466,752	△ 1,380,795
特定資産合計	5,652,448	7,334,561	△ 1,682,113
(3) その他固定資産			
什器備品	313,145	384,695	△ 71,550
ソフトウェア	162,433	407,923	△ 245,490
一括償却資産	68,988	43,634	25,354
電話加入権	72,030	72,030	0
保証金	1,400,000	1,400,000	0
長期前払費用	0	105,585	△ 105,585
その他固定資産合計	2,016,596	2,413,867	△ 397,271
固定資産合計	7,669,044	9,748,428	△ 2,079,384
資産合計	88,080,833	89,544,014	△ 1,463,181
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	0	233,151	△ 233,151
前受会費	16,850,000	16,150,000	700,000
未払費用	2,559,409	2,608,814	△ 49,405
未払法人税等	70,000	70,000	0
未払消費税等	600,600	398,700	201,900
前受金	0	1,646,500	△ 1,646,500
預り金	236,972	171,428	65,544
仮受金	0	10,000	△ 10,000
流動負債合計	20,316,981	21,288,593	△ 971,612
2. 固定負債			
退職給付引当金	2,184,239	1,580,208	604,031
固定負債合計	2,184,239	1,580,208	604,031
負債合計	22,501,220	22,868,801	△ 367,581
III 正味財産の部			
1. 基金			
基金	72,926,624	72,926,624	0
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 指定正味財産			
寄付金	2,105,957	3,766,752	△ 1,660,838
指定正味財産合計	2,105,957	3,766,752	△ 1,660,795
(うち特定資産への充当額)	(2,105,957)	(3,766,752)	(△ 1,660,795)
3. 一般正味財産			
(1) 代替基金	0	0	0
(2) その他一般正味財産	△ 9,452,968	△ 10,018,163	565,195
一般正味財産合計	△ 9,452,968	△ 10,018,163	565,195
(うち特定資産への充当額)	(1,362,252)	(1,987,601)	(△ 625,349)
正味財産合計	65,579,613	66,675,213	△ 1,095,600
負債及び正味財産合計	88,080,833	89,544,014	△ 1,463,181

貸借対照表内訳表

平成 25 年 3 月 31 日現在

公益社団法人 日本看護科学学会

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	内部取引消去	合計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	0	0	76,662,373	0	76,662,373
未収会費	0	0	1,380,000	0	1,380,000
未収金	289,013	100,000	0	0	389,013
たな卸資産	193,568	0	0	0	193,568
前払費用	1,681,250	0	105,585	0	1,786,835
他会計短期貸付金	0	0	24,787,954	△ 24,787,954	0
流動資産合計	2,163,831	100,000	102,935,912	△ 24,787,954	80,411,789
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
基本財産合計	0	0	0	0	0
(2) 特定資産					
選挙積立預金	0	0	1,362,252	0	1,362,252
退職給付引当資産	0	0	2,184,239	0	2,184,239
寄附積立資産	20,000	0	0	0	20,000
災害看護支援資産	2,085,957	0	0	0	2,085,957
特定資産合計	2,105,957	0	3,546,491	0	5,652,448
(3) その他固定資産					
什器備品	115,730	7,565	189,850	0	313,145
ソフトウェア	0	0	162,433	0	162,433
一括償却資産	0	0	68,988	0	68,988
電話加入権	0	0	72,030	0	72,030
保証金	0	0	1,400,000	0	1,400,000
その他固定資産合計	115,730	7,565	1,893,301	0	2,016,596
固定資産合計	2,221,687	7,565	5,439,792	0	7,669,044
資産合計	4,385,518	107,565	108,375,704	△ 24,787,954	88,080,833
II 負債の部					
1. 流動負債					
前受会費	0	0	16,850,000	0	16,850,000
未払費用	0	0	2,559,409	0	2,559,409
未払法人税等	0	70,000	0	0	70,000
未払消費税等	0	0	600,600	0	600,600
預り金	0	0	236,972	0	236,972
他会計短期借入金	21,381,374	3,406,580	0	△ 24,787,954	0
流動負債合計	21,381,374	3,476,580	20,246,981	△ 24,787,954	20,316,981
2. 固定負債					
退職給付引当金	0	0	2,184,239	0	2,184,239
固定負債合計	0	0	2,184,239	0	2,184,239
負債合計	21,381,374	3,476,580	22,431,220	△ 24,787,954	22,501,220
III 正味財産の部					
1. 基金					
基金	0	0	72,926,624	0	72,926,624
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
2. 指定正味財産					
寄付金	2,105,957	0	0	0	2,105,957
指定正味財産合計	2,105,957	0	0	0	2,105,957
(うち特定資産への充当額)	(2,105,957)	(0)	(0)	(0)	(2,105,957)
3. 一般正味財産					
(1) 代替基金	0	0	0	0	0
(2) その他一般正味財産	△ 19,101,813	△ 3,369,015	13,017,860	0	△ 9,452,968
一般正味財産合計	△ 19,101,813	△ 3,369,015	13,017,860	0	△ 9,452,968
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(1,362,252)	(0)	(1,362,252)
正味財産合計	△ 16,995,856	△ 3,369,015	85,944,484	0	65,579,613
負債及び正味財産合計	4,385,518	107,565	108,375,704	△ 24,787,954	88,080,833

正味財産増減計算書

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで

公益社団法人 日本看護科学学会

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益			
特定資産受取利息	661	438	223
受取会費			
正会員受取会費	70,450,000	66,710,000	3,740,000
賛助会員受取会費	300,000	300,000	0
受取会費計	70,750,000	67,010,000	3,740,000
事業収益			
学会誌収益	2,304,289	2,204,476	99,813
学術集会収益	37,923,000	27,894,000	10,029,000
広告販売収益	10,232,711	6,340,000	3,892,711
事業収益計	50,460,000	36,438,476	14,021,524
受取寄付金			
受取寄付金	1,020,000	1,040,000	△ 20,000
助成金収益	0	1,000,000	△ 1,000,000
受取寄付金振替額	3,118,240	1,648,550	1,469,690
受取寄付金計	4,138,240	3,688,550	449,690
雑収益			
受取利息	4,646	3,020	1,626
著作権料収益	383,270	265,775	117,495
懇親会収益	538,000	1,183,000	△ 645,000
雑収益	1,724,000	298,000	1,426,000
雑収益計	2,649,916	1,749,795	900,121
経常収益計	127,998,817	108,887,259	19,111,558
(2) 経常費用			
事業費			
期首たな卸高	173,202	182,089	△ 8,887
和文誌発行費	12,540,425	10,948,162	1,592,263
英文誌発行費	16,658,907	14,675,085	1,983,822
学術集会プログラム・案内	5,196,970	4,540,200	656,770
期末たな卸高	△ 193,568	△ 174,469	△ 19,099
給料手当	5,753,186	5,529,655	223,531
臨時雇賃金	196,200	641,778	△ 445,578
賞与	267,739	190,961	76,778
退職給付費用	237,828	188,729	49,099
福利厚生費	698,619	579,213	119,406
旅費交通費	2,866,223	4,570,977	△ 1,704,754
通信運搬費	1,256,102	2,142,179	△ 886,077
減価償却費	28,173	35,579	△ 7,406
消耗品費	358,721	1,548,105	△ 1,189,384
修繕費	12,403	24,333	△ 11,930
印刷製本費	6,627,482	3,903,007	2,724,475
慶弔費	0	8,475	△ 8,475
光熱水料費	246,608	216,869	29,739
賃借料	1,809,122	1,801,930	7,192
保険料	2,774	2,774	0
諸謝金	918,104	181,107	736,997
租税公課	600,600	398,700	201,900
支払負担金	0	240,411	△ 240,411
支払助成金	2,818,240	1,628,550	1,189,690
委託費	10,099,843	4,627,614	5,472,229
会議費	1,237,302	1,546,990	△ 309,688
表彰費	118,925	86,615	32,310
渉外費	0	115,000	△ 115,000
会場費	28,365,975	16,962,275	11,403,700
通勤手当	511,305	533,675	△ 22,370
懇親会費	720,114	1,120,000	△ 399,886
雑費	795,738	871,664	△ 75,926
事業費計	100,923,262	79,868,232	21,055,030
管理費			
給料手当	8,858,634	8,197,250	661,384
賞与	412,261	294,039	118,222

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
臨時雇賃金	118,000	162,750	△ 44,750
退職給付費用	366,203	290,599	75,604
福利厚生費	1,075,720	891,859	183,861
会議費	3,810,640	3,632,954	177,686
渉外費	10,290	9,525	765
旅費交通費	653,717	490,203	163,514
通信運搬費	1,203,816	1,465,017	△ 261,201
減価償却費	366,994	427,197	△ 60,203
通勤手当	787,295	821,745	△ 34,450
消耗品費	581,699	655,914	△ 74,215
修繕費	19,097	37,467	△ 18,370
印刷製本費	29,028	18,747	10,281
慶弔費	65,717	13,050	52,667
光熱水料費	379,724	333,930	45,794
賃借料	2,785,650	2,774,577	11,073
保険料	4,270	4,270	0
諸謝金	0	32,340	△ 32,340
租税公課	55,111	3,137	51,974
支払負担金	280,000	280,000	0
委託費	2,391,419	3,080,812	△ 689,393
資格喪失者会費	1,420,000	540,000	880,000
雑費	763,808	758,741	5,067
管理費計	26,439,093	25,216,123	1,222,970
経常費用計	127,362,355	105,084,355	22,278,000
評価損益等調整前当期経常増減額	636,462	3,802,904	△ 3,166,442
当期経常増減額	636,462	3,802,904	△ 3,166,442
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
その他の経常外収益			
前期たな卸高修正益	0	67,210	△ 67,210
経常外収益計	0	67,210	△ 67,210
(2) 経常外費用			
固定資産除却損失			
什器備品除却損	0	1,669	△ 1,669
その他の経常外費用			
前期たな卸高修正損	1,267	0	1,267
経常外費用計	1,267	1,669	△ 402
当期経常外増減額	△ 1,267	65,541	△ 66,808
税引前当期一般正味財産増減額	635,195	3,868,445	△ 3,233,250
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	565,195	3,798,445	△ 3,233,250
一般正味財産期首残高	△ 10,018,163	△ 13,816,608	3,798,445
一般正味財産期末残高	△ 9,452,968	△ 10,018,163	565,195
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金			
受取寄付金	1,457,100	5,395,000	△ 3,937,900
受取利息	345	302	43
受取寄付金計	1,457,445	5,395,302	△ 3,937,857
一般正味財産への振替額			
一般正味財産への振替額	△ 3,118,240	△ 1,648,550	△ 1,469,690
当期指定正味財産増減額	△ 1,660,795	3,746,752	△ 5,407,547
指定正味財産期首残高	3,766,752	20,000	3,746,752
指定正味財産期末残高	2,105,957	3,766,752	△ 1,660,795
III 基金増減の部			
基金受入額	0	0	0
基金返還額	0	0	0
当期基金増減額	0	0	0
基金期首残高	72,926,624	72,926,624	0
基金期末残高	72,926,624	72,926,624	0
IV 正味財産期末残高	65,579,613	66,675,213	△ 1,095,600

正味財産増減計算書内訳表

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで

公益社団法人 日本看護科学学会

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計							収益事業等会計				法人会計	内部取引 消去	合計	
	学術振興 事業	学会誌事業	学術集会 事業	市民講座等 事業	災害看護支 援事業	共通	小計	広告販売 事業	連携事業	共通	小計				
I 一般正味財産増減の部															
1. 経常増減の部															
(1) 経常収益															
特定資産運用益															
特定資産受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	661	0	661	
受取会費															
正会員受取会費	0	0	0	0	0	35,225,000	35,225,000	0	0	0	0	35,225,000	0	70,450,000	
賛助会員受取会費	0	0	0	0	0	300,000	300,000	0	0	0	0	0	0	300,000	
受取会費計	0	0	0	0	0	35,525,000	35,525,000	0	0	0	0	35,225,000	0	70,750,000	
事業収益															
学会誌収益	0	2,304,289	0	0	0	0	2,304,289	0	0	0	0	0	0	2,304,289	
学術集会収益	0	0	37,923,000	0	0	0	37,923,000	0	0	0	0	0	0	37,923,000	
広告販売収益	0	0	0	0	0	0	0	10,232,711	0	0	10,232,711	0	0	10,232,711	
事業収益計	0	2,304,289	37,923,000	0	0	0	40,227,289	10,232,711	0	0	10,232,711	0	0	50,460,000	
受取寄付金															
受取寄付金	0	0	1,020,000	0	0	0	1,020,000	0	0	0	0	0	0	1,020,000	
受取寄付金振替額	0	0	300,000	0	2,818,240	0	3,118,240	0	0	0	0	0	0	3,118,240	
受取寄付金計	0	0	1,320,000	0	2,818,240	0	4,138,240	0	0	0	0	0	0	4,138,240	
雑収益															
受取利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,646	0	4,646	
著作権料収益	0	383,270	0	0	0	0	383,270	0	0	0	0	0	0	383,270	
懇親会収益	0	0	538,000	0	0	0	538,000	0	0	0	0	0	0	538,000	
雑収益計	1,161,000	563,000	0	0	0	0	1,724,000	0	0	0	0	0	0	1,724,000	
雑収益計	1,161,000	946,270	538,000	0	0	0	2,645,270	0	0	0	0	4,646	0	2,649,916	
経常収益計	1,161,000	3,250,559	39,781,000	0	2,818,240	35,525,000	82,535,799	10,232,711	0	0	10,232,711	35,230,307	0	127,998,817	
(2) 経常費用															
事業費															
期首たな卸高	0	173,202	0	0	0	0	173,202	0	0	0	0	0	0	173,202	
和文誌発行費	0	12,540,425	0	0	0	0	12,540,425	0	0	0	0	0	0	12,540,425	
英文誌発行費	0	16,658,907	0	0	0	0	16,658,907	0	0	0	0	0	0	16,658,907	
学術集会プログラム・案内	0	0	5,196,970	0	0	0	5,196,970	0	0	0	0	0	0	5,196,970	
期末たな卸高	0	△ 193,568	0	0	0	0	△ 193,568	0	0	0	0	0	0	△ 193,568	
給料手当	2,684,683	1,239,716	1,338,237	137,518	0	0	5,400,154	88,258	264,774	0	353,032	0	0	5,753,186	
臨時雇賃金	46,500	32,000	20,338	23,000	25,000	0	146,838	362	49,000	0	49,362	0	0	196,200	
賞与	124,939	57,693	62,278	6,400	0	0	251,310	4,107	12,322	0	16,429	0	0	267,739	
退職給付費用	110,981	51,248	55,321	5,685	0	0	223,235	3,648	10,945	0	14,593	0	0	237,828	
福利厚生費	326,006	150,541	162,504	16,699	0	0	655,750	10,717	32,152	0	42,869	0	0	698,619	
旅費交通費	540,856	1,423,832	678,492	57,176	7,840	0	2,708,196	12,195	145,832	0	158,027	0	0	2,866,223	
通信運搬費	366,191	196,834	515,526	121,746	0	0	1,200,297	17,894	37,911	0	55,805	0	0	1,256,102	
減価償却費	13,146	6,071	6,553	674	0	0	26,444	432	1,297	0	1,729	0	0	28,173	
消耗品費	137,219	82,297	107,461	14,101	0	0	341,078	4,671	12,972	0	17,643	0	0	358,721	
修繕費	5,788	2,673	2,885	296	0	0	11,642	190	571	0	761	0	0	12,403	
印刷製本費	81,772	78,548	6,280,754	49,801	0	0	6,490,875	289	136,318	0	136,607	0	0	6,627,482	
光熱水料費	115,078	53,140	57,363	5,895	0	0	231,476	3,783	11,349	0	15,132	0	0	246,608	
賃借料	844,214	389,836	420,816	43,243	0	0	1,698,109	27,753	83,260	0	111,013	0	0	1,809,122	
保険料	1,294	598	645	66	0	0	2,603	43	128	0	171	0	0	2,774	
諸謝金	458,025	83,333	211,109	165,637	0	0	918,104	0	0	0	0	0	0	918,104	
租税公課	0	70,859	294,751	0	0	0	365,610	234,990	0	0	234,990	0	0	600,600	
支払助成金	0	0	0	0	2,818,240	0	2,818,240	0	0	0	0	0	0	2,818,240	
委託費	371,525	801,560	8,512,373	19,030	0	0	9,704,488	12,214	383,141	0	395,355	0	0	10,099,843	
会議費	50,212	128,633	1,025,425	4,626	0	0	1,208,896	18,236	10,170	0	28,406	0	0	1,237,302	
表彰費	0	118,925	0	0	0	0	118,925	0	0	0	0	0	0	118,925	
会場費	258,000	10,000	27,373,657	222,859	0	0	27,864,516	486,809	14,650	0	501,459	0	0	28,365,975	
通勤手当	238,597	110,178	118,933	12,222	0	0	479,930	7,844	23,531	0	31,375	0	0	511,305	
懇親会費	0	0	720,114	0	0	0	720,114	0	0	0	0	0	0	720,114	
雑費	234,299	106,891	382,097	37,269	0	0	760,556	12,353	22,829	0	35,182	0	0	795,738	
事業費計	7,009,325	34,374,372	53,544,602	943,943	2,851,080	0	98,723,322	946,788	1,253,152	0	2,199,940	0	0	100,923,262	

科 目	公益目的事業会計							収益事業等会計				法人会計	内部取引 消去	合計	
	学術振興 事業	学会誌事業	学術集会 事業	市民講座等 事業	災害看護 支援事業	共通	小計	広告販売 事業	連携事業	共通	小計				
管理費															
給料手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,858,634	0	8,858,634	
賞与	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	412,261	0	412,261	
臨時雇賃金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	118,000	0	118,000	
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	366,203	0	366,203	
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,075,720	0	1,075,720	
会議費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,810,640	0	3,810,640	
渉外費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,290	0	10,290	
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	653,717	0	653,717	
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,203,816	0	1,203,816	
減価償却費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	366,994	0	366,994	
通勤手当	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	787,295	0	787,295	
消耗品費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	581,699	0	581,699	
修繕費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19,097	0	19,097	
印刷製本費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29,028	0	29,028	
慶弔費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	65,717	0	65,717	
光熱水料費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	379,724	0	379,724	
賃借料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,785,650	0	2,785,650	
保険料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,270	0	4,270	
租税公課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	55,111	0	55,111	
支払負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	280,000	0	280,000	
委託費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,391,419	0	2,391,419	
資格喪失者会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,420,000	0	1,420,000	
雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	763,808	0	763,808	
管理費計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26,439,093	0	26,439,093	
経常費用計	7,009,325	34,374,372	53,544,602	943,943	2,851,080	0	98,723,322	946,788	1,253,152	0	2,199,940	26,439,093	0	127,362,355	
評価増益等調整前当期経常増減額	△5,848,325	△31,123,813	△13,763,602	△943,943	△32,840	35,525,000	△16,187,523	9,285,923	△1,253,152	0	8,032,771	8,791,214	0	636,462	
当期経常増減額	△5,848,325	△31,123,813	△13,763,602	△943,943	△32,840	35,525,000	△16,187,523	9,285,923	△1,253,152	0	8,032,771	8,791,214	0	636,462	
2. 経常外増減の部															
(1) 経常外収益															
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
(2) 経常外費用															
その他の経常外費用															
前期たな卸高修正損	0	1,267	0	0	0	0	1,267	0	0	0	0	0	0	1,267	
経常外費用計	0	1,267	0	0	0	0	1,267	0	0	0	0	0	0	1,267	
当期経常外増減額	0	△1,267	0	0	0	0	△1,267	0	0	0	0	0	0	△1,267	
他会計振替額	0	0	0	0	0	9,037,891	9,037,891	△9,037,891	0	0	△9,037,891	0	0	0	
税引前当期一般正味財産増減額	△5,848,325	△31,125,080	△13,763,602	△943,943	△32,840	44,562,891	△7,150,899	248,032	△1,253,152	0	△1,005,120	8,791,214	0	636,195	
法人税、住民税及び事業税	0	0	0	0	0	0	0	70,000	0	0	70,000	0	0	70,000	
当期一般正味財産増減額	△5,848,325	△31,125,080	△13,763,602	△943,943	△32,840	44,562,891	△7,150,899	178,032	△1,253,152	0	△1,075,120	8,791,214	0	565,195	
一般正味財産期首残高	△11,686,681	△53,572,571	△17,095,346	△1,447,142	△72,080	71,922,906	△11,950,914	506,429	△2,800,324	0	△2,293,895	4,226,646	0	△10,018,163	
一般正味財産期末残高	△17,535,006	△84,697,651	△30,858,948	△2,391,085	△104,920	116,485,797	△19,101,813	684,461	△4,053,476	0	△3,369,015	13,017,860	0	△9,452,968	
II 指定正味財産増減の部															
受取寄付金															
受取寄付金	0	0	20,000	0	1,437,100	0	1,457,100	0	0	0	0	0	0	1,457,100	
受取利息	0	0	0	0	345	0	345	0	0	0	0	0	0	345	
受取寄付金計	0	0	20,000	0	1,437,445	0	1,457,445	0	0	0	0	0	0	1,457,445	
一般正味財産への振替額															
一般正味財産への振替額	0	0	△300,000	0	△2,818,240	0	△3,118,240	0	0	0	0	0	0	△3,118,240	
当期指定正味財産増減額	0	0	△280,000	0	△1,380,795	0	△1,660,795	0	0	0	0	0	0	△1,660,795	
指定正味財産期首残高	0	0	300,000	0	3,466,752	0	3,766,752	0	0	0	0	0	0	3,766,752	
指定正味財産期末残高	0	0	20,000	0	2,085,957	0	2,105,957	0	0	0	0	0	0	2,105,957	
III 基金増減の部															
基金受入額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
基金返還額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
当期基金増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
基金期首残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72,926,624	0	72,926,624	
基金期末残高	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	72,926,624	0	72,926,624	
IV 正味財産期末残高	△17,535,006	△84,697,651	△30,838,948	△2,391,085	1,981,037	116,485,797	△16,995,856	684,461	△4,053,476	0	△3,369,015	85,944,484	0	65,579,613	

法人名：公益社団法人 日本看護科学学会

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 当法人は、公益法人会計基準（平成 20 年 4 月 11 日 平成 21 年 10 月 16 日改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。
- (2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
個別法による最終仕入原価法によっている。
- (3) 固定資産の減価償却の方法
法人税法の規定に基づき次のとおりの償却方法を採用している。
① 什器備品………定率法によっている。
② ソフトウェア……5 年間にわたる定額法によっている。
③ 一括償却資産……3 年間にわたる定額法によっている。
- (4) 引当金の計上基準
退職給付引当金………当期末退職給与の自己都合要支給額に相当する額を計上している。
- (5) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。
- (6) 前期たな卸高修正益
前期末のたな卸資産の計上額に誤りがあったため、期中において修正を行い、その修正額 1,267 円を前期たな卸高修正損に計上している。
そのため貸借対照表（前年度）のたな卸資産 174,469 円と正味財産増減計算書及び正味財産増減計算書内訳表における期首たな卸高 173,202 円には 1,267 円の差額が生じている。

2. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
選挙積立預金	1,987,601	347	625,696	1,362,252
退職給付引当資産	1,580,208	604,031	0	2,184,239
寄附積立資産	300,000	20,000	300,000	20,000
災害看護支援資産	3,466,752	1,437,655	2,818,450	2,085,957
小 計	7,334,561	2,062,033	3,744,146	5,652,448
合 計	7,334,561	2,062,033	3,744,146	5,652,448

3. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち基金からの 充当額)	(うち指定正味 財産からの充当)	(うち一般正味 財産からの充当)	(うち負債に 対応する額)
特定資産					
選挙積立預金	1,362,252	(0)	(0)	(1,362,252)	(0)
退職給付引当資産	2,184,239	(0)	(0)	(0)	(2,184,239)
寄附積立資産	20,000	(0)	(20,000)	(0)	(0)
災害看護支援資産	2,085,957	(0)	(2,085,957)	(0)	(0)
小 計	5,652,448	(0)	(2,105,957)	(1,362,252)	(2,184,239)
合 計	5,652,448	(0)	(2,105,957)	(1,362,252)	(2,184,239)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
什器備品	3,390,678	3,077,533	313,145
ソフトウェア	1,739,430	1,576,997	162,433
一括償却資産	234,381	165,393	68,988

5. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

内 容	金 額
東日本これからのケア 川嶋みどり 「東日本大震災における被災地の看護職者の語りを通して看護実践内容を明らかにする」助成	995,000
佐々木久美子（宮城大学看護学部） 「宮城大学看護学生・教職員による南三陸町に在住する高齢者への健康支援活動を行うためのシステムづくり」助成	500,000
山本あい子（兵庫県立大学） 「気仙沼市鹿折地区仮設住宅の家庭全戸訪問による健康・生活調査」助成	900,000
綾部明江（茨城県立医療大学） 「都市部に避難した東日本大震災被災者への健康支援事業の実施」助成	423,240
第32回学術集会 (株)大塚製薬工場より寄附)	300,000
合 計	3,118,240

附 属 明 細 書

1. 重要な固定資産の明細

(単位：円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
特定資産	選挙積立預金	1,987,601	347	625,696	1,362,252
	退職給付引当資産	1,580,208	604,031	0	2,184,239
	寄附積立資産	300,000	20,000	300,000	20,000
	災害看護支援資産	3,466,752	1,437,655	2,818,450	2,085,957
	特定資産計	7,334,561	2,062,033	3,744,146	5,652,448
その他固定資産	什器備品	384,695	0	71,550	313,145
	ソフトウェア	407,923	0	245,490	162,433
	一括償却資産	43,634	103,481	78,127	68,988
	電話加入権	72,030	0	0	72,030
	保証金	1,400,000	0	0	1,400,000
	長期前払費用	105,585	0	105,585	0
	その他固定資産計	2,413,867	103,481	500,752	2,016,596

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	1,580,208	604,031	0	0	2,184,239

収支計算書に対する注記

次期繰越収支差額に含まれる資産および負債の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現 金	134,560	116,610
普通預金	74,302,537	76,545,763
未収会費	1,672,000	1,380,000
未収金	2,183,726	389,013
前払費用	1,328,294	1,786,835
合 計	79,621,117	80,218,221
未払金	233,151	0
前受会費	16,150,000	16,850,000
未払費用	2,608,814	2,559,409
未払消費税等	398,700	600,600
未払法人税等	70,000	70,000
前受金	1,646,500	0
預り金	171,428	236,972
仮受金	10,000	0
合 計	21,288,593	20,316,981
次期繰越収支残高	58,332,524	59,901,240

財産目録

平成 25 年 3 月 31 日現在

公益社団法人 日本看護科学学会

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)				
現金預金	手元現金	運転資金として	113,345	
	学術集会用小口現金 (第 33 回)	運転資金として	3,265	
	普通預金		62,651,509	
	みずほ銀行本郷支店	運転資金として	8,879,232	
	三菱東京 UFJ 銀行本郷支店	運転資金として	4,079,032	
	三菱東京 UFJ 銀行本郷支店	運転資金として	470,590	
	三井住友銀行大阪本店営業部	運転資金として	465,400	
	ゆうちょ銀行	運転資金として	1,380,000	
	未収会費	平成 24 年度会費	会員会費未収金 138 名分	289,013
	未収金	(株)国際文献印刷社	学会誌・講演集販売代金の未収金 H25.1～3 月分	100,000
		(株)コスモサウンド	第 31 回学術集會企業展示料	193,568
	たな卸資産	学会誌・学術講演集在庫	学会誌及び学術講演集の在庫	585
	前払費用	(株)損害保険ジャパン	火災保険料 H25.4.1～H25.5.13	105,000
	春日土地(株)	事務所賃借更新料 H25.4.1～H25.12.31	1,181,250	
	(有)プライムアソシエイツ	JJNS 編集事務費 H25.4.1～H25.12.31	500,000	
	ウィリアム・ルイス・ホルツマー	JJNS 編集長報酬 H25.4.1～H25.6.30		
流動資産合計			80,411,789	
(固定資産)				
特定資産				
選挙積立預金	みずほ銀行本郷支店	管理業務の用に供している	1,362,252	
退職給付引当資産	三菱東京 UFJ 銀行本郷支店	退職金の引当資産である	2,184,239	
寄附積立資産	三菱東京 UFJ 銀行本郷支店	指定正味財産であり、学術集會のために寄附を受けている	20,000	
災害看護支援資産	三菱東京 UFJ 銀行本郷支店	指定正味財産であり、災害看護支援事業のために寄附を受けている	1,085,957	
その他固定資産				
什器備品	ゆうちょ銀行 東京都文京区本郷 3-37-3 オカムラ両開き書庫他 6 点	同上	1,000,000	
ソフトウェア	東京都文京区本郷 3-37-3 会員管理システム	管理業務の用に供している	162,433	
一括償却資産	東京都文京区本郷 3-37-3	管理業務の用に供している	68,988	
電話加入権	東京都文京区本郷 3-37-3	管理業務の用に供している	72,030	
保証金	東京都文京区本郷 3-37-3	管理業務の用に供している	1,400,000	
固定資産合計			7,669,044	
資産合計			88,080,833	
(流動負債)				
前受会費	平成 25 年度会費	平成 25 年度正会員 10,000 円×1,660 名 平成 25 年度賛助会員 250,000 円 (5 口)	16,850,000 1,483,189	
未払費用	(株)日新社 日本郵便(株) 厚生労働省年金局 (株)ASC 他 5 件	角 2 封筒 15,000 部、案内パンフレット発送作業他 和文誌発送費 (第 33 巻 1 号)、口座振替料 社会保険料 (H25.2～3 月分) 和文誌発送代行 (第 33 巻 1 号) 7,026 冊 他	489,882 242,120 344,218	
未払法人税等	東京都千代田都税事務所	平成 24 年度法人住民税	70,000	
未払消費税等	本郷税務署	平成 24 年度消費税	600,600	
預り金	事務所員 中村コンサルティングオフィス	源泉税・住民税・健康保険・厚生年金 報酬源泉税	203,279 33,693	
流動負債合計			20,316,981	
(固定負債)				
退職給付引当金	事務所員 8 名分	平成 25 年 3 月末日要支給額	2,184,239	
固定負債合計			2,184,239	
負債合計			22,501,220	
正味財産			65,579,613	

公益社団法人 日本看護科学学会 平成 24 年度 収支計算書

平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	備考	平成 24 年度 予算額	平成 24 年度 決算額	差異
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		1,000	661	339
特定資産受取利息収入		1,000	661	339
②会費収入		71,100,000	70,750,000	350,000
正会員会費収入	※ 1	70,800,000	70,450,000	350,000
賛助会員会費収入	※ 2	300,000	300,000	0
③学会誌収入（講演集含む）		1,932,000	2,304,289	△ 372,289
④寄付金収入（学術集会分含まず）	※ 3	1,500,000	1,437,445	62,555
⑤雑収入		503,000	2,111,916	△ 1,608,916
受取利息収入		3,000	4,646	△ 1,646
著作権料収入		100,000	383,270	△ 283,270
その他雑収入	※ 4	400,000	1,724,000	△ 1,324,000
⑥学術集会収入		40,800,000	49,713,711	△ 8,913,711
学術集会参加費収入		30,560,000	37,923,000	△ 7,363,000
事前登録会員（1万円）		11,800,000	13,290,000	△ 1,490,000
事前登録非会員（1.2万円）		5,040,000	4,896,000	144,000
事前登録学部生（0.3万円）		80,000	252,000	△ 172,000
当日登録会員（1.2万円）		9,360,000	12,336,000	△ 2,976,000
当日登録非会員（1.4万円）		4,200,000	7,056,000	△ 2,856,000
当日登録学部生（0.3万円）		80,000	93,000	△ 13,000
寄付金収入		1,000,000	1,020,000	△ 20,000
広告販売収入		8,600,000	10,232,711	△ 1,632,711
企業展示出展料		4,995,000	4,109,711	885,289
広告掲載料		1,613,000	2,031,000	△ 418,000
スポンサーセミナー		1,992,000	4,092,000	△ 2,100,000
懇親会収入		640,000	538,000	102,000
事業活動収入合計（I a）		115,836,000	126,318,022	△ 10,482,022
2. 事業活動支出				
①事業費支出		83,020,785	89,098,789	△ 6,078,004
学会誌発行費支出		28,647,000	29,199,332	△ 552,332
和文誌編集・印刷費支出		10,008,000	9,510,192	497,808
和文誌送費支出		2,688,000	2,709,343	△ 21,343
30周年記念事業費	※ 5	300,000	640	299,360
J-Stage アーカイブ対応費	※ 6	0	320,250	△ 320,250
英文誌編集・印刷費支出	※ 7	14,516,000	15,612,030	△ 1,096,030
英文誌送費支出		1,135,000	1,046,877	88,123
編集活動費支出		1,785,000	2,295,728	△ 510,728
和文誌編集委員会費支出	※ 8	600,000	755,925	△ 155,925
英文誌編集委員会費支出	※ 9	1,185,000	1,539,803	△ 354,803
看護学術振興費支出		2,804,400	2,296,116	508,284
看護学術用語検討委員会費支出		800,000	476,739	323,261
国際活動推進委員会費支出		526,000	252,815	273,185
看護倫理検討委員会費支出		491,000	159,307	331,693
研究・学術情報委員会費支出		485,400	451,960	33,440
表彰論文選考委員会費支出		502,000	142,300	359,700
セミナー等開催費	※ 10	0	812,995	△ 812,995
研究学術活動費支出		4,491,000	5,315,895	△ 824,895
第 32 回学術集会案内印刷・送付費支出	※ 11	0	1,024,292	△ 1,024,292
第 32 回学術集会プログラム印刷・送付費支出		3,095,000	2,599,629	495,371
第 33 回学術集会案内印刷・送付費支出	※ 12	1,135,000	1,573,049	△ 438,049
受賞論文表彰費支出		140,000	118,925	21,075
研究倫理審査委員会費		121,000	0	121,000
社会的活動費支出		1,266,500	659,128	607,372
社会貢献委員会支出		816,500	218,748	597,752
市民フォーラム開催費		450,000	440,380	9,620

資料 7-7

科 目	備考	平成 24 年度 予算額	平成 24 年度 決算額	差異
災害看護支援事業費支出		1,600,000	2,851,080	△ 1,251,080
災害看護支援事業委員会		100,000	32,840	67,160
災害看護支援事業助成金	※ 13	1,500,000	2,818,240	△ 1,318,240
総務費支出		1,027,000	671,259	355,741
総務委員会費支出		400,000	330,856	69,144
広報委員会費支出		627,000	340,403	286,597
第 32 回学術集会		40,199,885	44,610,251	△ 4,410,366
人件費支出		100,000	20,700	79,300
諸謝金費支出		388,885	211,109	177,776
会議費支出		320,000	986,304	△ 666,304
会場費支出	※ 14	24,460,000	27,860,466	△ 3,400,466
旅費交通費支出		610,000	591,940	18,060
通信運搬費支出		241,000	221,103	19,897
消耗品費支出		670,000	30,271	639,729
印刷製本費支出		5,665,000	5,909,469	△ 244,469
委託費支出	※ 15	6,595,000	7,787,530	△ 1,192,530
渉外費支出		50,000	0	50,000
雑支出		100,000	271,245	△ 171,245
懇親会運営費支出		1,000,000	720,114	279,886
第 33 回学術集会		1,200,000	1,200,000	0
人件費支出		200,000	0	200,000
会議費支出		100,000	57,357	42,643
旅費交通費支出		300,000	95,880	204,120
通信運搬費支出		50,000	119,220	△ 69,220
消耗品費支出		200,000	20,783	179,217
印刷製本費支出		300,000	366,900	△ 66,900
委託費支出		0	539,650	△ 539,650
雑支出		50,000	210	49,790
②管理費支出		37,828,400	37,354,734	473,666
給料手当支出	※ 16	13,849,000	15,291,820	△ 1,442,820
退職給付支出		300,000	0	300,000
福利厚生費支出	※ 16	1,522,000	1,774,339	△ 252,339
会議費（学会総会費）		1,000,000	319,696	680,304
会議費（社員総会費）		3,010,000	1,174,630	1,835,370
会議費（理事会費）		2,170,000	2,285,336	△ 115,336
委託費支出		2,984,600	3,082,582	△ 97,982
渉外費支出		30,000	10,290	19,710
旅費交通費支出		25,000	29,370	△ 4,370
通信運搬費支出		2,075,000	1,977,924	97,076
通勤費支出		1,350,000	1,298,600	51,400
消耗品費支出		1,045,000	625,636	419,364
印刷製本費支出		60,000	47,880	12,120
慶弔費支出		50,000	65,717	△ 15,717
光熱水料費支出		660,000	626,332	33,668
賃借料支出		4,530,000	4,594,772	△ 64,772
保険料支出		7,800	7,044	756
諸謝金支出		50,000	0	50,000
租税公課支出	※ 17	620,000	725,711	△ 105,711
負担金支出		280,000	280,000	0
修繕費支出		50,000	31,500	18,500
会場費支出		0	0	0
選挙費用支出		600,000	425,696	174,304
資格喪失者会費支出	※ 18	540,000	1,420,000	△ 880,000
雑支出		1,020,000	1,259,859	△ 239,859
事業活動支出合計（I b）		120,849,185	126,453,523	△ 5,604,338
事業活動収支差額（I a）-（I b）		△ 5,013,185	△ 135,501	△ 4,877,684

科 目	備考	平成 24 年度 予算額	平成 24 年度 決算額	差異
II 投資活動収支の部（資金の内部移動）				
1. 投資活動収入	※ 19			
選挙積立取崩（選挙費用として使用）		600,000	425,696	174,304
選挙積立取崩（H23 年度積立金額間違い戻し）			200,000	△ 200,000
退職給付引当資産取崩		300,000	0	300,000
寄付資産取崩	※ 20	0	300,000	
災害看護支援資産取崩（災害看護支援助成金へ）	※ 21	0	2,818,450	△ 2,818,450
長期前払費用振替		0	105,585	△ 105,585
投資活動収入合計（II a）		900,000	3,849,731	△ 2,949,731
2. 投資活動支出	※ 22			
選挙積立預金	※ 23	1,000,000	347	999,653
退職給付引当金積立		724,000	604,031	119,969
災害看護支援事業積立		0	1,437,655	△ 1,437,655
3. 固定資産等取得支出				
什器備品購入支出		100,000	103,481	△ 3,481
事務所更新料・火災保険料支出		0	0	0
投資活動支出合計（II b）		1,824,000	2,145,514	△ 321,514
投資活動収支差額（II a）-（II b）		△ 924,000	1,704,217	△ 2,628,217
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入				
財務活動収入合計（III a）		0	0	0
2. 財務活動支出				
財務活動支出合計（III b）		0	0	0
財務活動収支差額（III a）-（III b）		0	0	0
IV 予備費支出		3,000,000	0	3,000,000
当期収支差額		△ 8,937,185	1,568,716	
前期繰越収支差額		41,878,128	58,332,524	
次期繰越収支差額		32,940,943	59,901,240	

- ※ 1 平成 24 年 4 月 1 日現在の会員登録数（請求人数 6,354 名）、平成 24 年度中の新入会・再入会者が 691 名。
- ※ 2 (株)日本看護協会出版会 2 口、(株)医学書院・(株)南江堂・(株)へるす出版・(有)ヌーヴェルヒロカワ各 1 口。
- ※ 3 災害看護支援事業寄付金+受取利息
- ※ 4 JJNS（英文誌）セミナー参加費（56 万円）、JANS（理事会主催）セミナー参加費（116 万円）
- ※ 5 30 周年記念号として印刷製本せず、32 巻 3 号に特別記事として掲載した。
- ※ 6 H22 年に予算立てしていたが、作業および請求の遅延により H24 年度経費となった。
- ※ 7 取扱原稿超過分の予算が 20 篇のところ 150 篇あったため。
- ※ 8 遠方委員が多いため、交通費支出が予算を上回った。
- ※ 9 委員増員および委員会開催回数の増加により交通費支出が予算を上回った。
- ※ 10 平成 24 年度では予算計上をしていなかった JANS セミナーを今期中に開催したため。
- ※ 11 JANS32 学術集会案内パンフレット作成料が平成 23 年度に未請求だったため、平成 24 年度経費になった。
- ※ 12 会員異動の影響を避けるため、パンフレット送付に係る日数の短縮を優先させたことにより、発送代金および発送作業費が予算を超過した。
- ※ 13 募金額が予定を上回ったので、助成事業を増やした。（3 件→4 件）
- ※ 14 参加人数の増加に伴い、会場を拡大した。
- ※ 15 会場の拡大により当日委託費（スタッフ配置）が予算を上回った。また、当日の現金輸送費用を予算化していなかったため予算を超過した。
- ※ 16 会員数の漸増と会員サービスの充実、公益事業（各総会、学術集会、セミナー、委員会活動等）の活発化に伴い、事務所の担務が質・量、密度共に高度化しており、時間外・休日出勤などでも対応しているため。
- ※ 17 収益事業（学会誌販売収入、著作権収入、学術集会に伴う広告販売収入）に関わる法人税および法人事業税は 0 円、法人住民税 7 万円（均等割分のみ）。
- 消費税課税売上高（学術集会非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など）から簡易課税方式にて計算した消費税約 60 万円。
- ※ 18 平成 24 年 4 月 1 日付の資格喪失者のうち、平成 24 年 3 月 31 日までに未納会費を納入し再入会したものの以外は損失分として支出に計上される。
- ※ 19 各積立金を取り崩し、それを資金として各目的の事業活動のために使用する。事業活動資金の増加となるため、「投資活動収入」と表す。
- ※ 20 H23 年度中に受領した JANS32 学術集会への寄付金を積立で、H24 年度の JANS32 学術集会の活動資金とした。
- ※ 21 災害看護支援事業助成金額を予算化することができないため、実績のみ計上。
- ※ 22 目的のある積立をするために、事業活動の資金を各積立預金に振替える。事業活動資金が減少するため、「投資活動支出」と表す。
- ※ 23 平成 23 年度中に 24 年度分の積立（資金移動）を執行済みのため、利息分のみを計上。

災害看護支援事業収支報告書

平成 25 年 3 月 31 日現在

項目	平成 23 年度		平成 24 年度	
収入の部				
①災害看護支援寄附金収入	5,095,000		1,437,100	
《内訳》 団体	5 件	4,270,000	1 件	1,000,000
個人	39 名	825,000	2 名	303,000
ワンコイン募金 (JANS32)	0		134,100	
②預金利息	302		345	
収入合計	5,095,302		1,437,445	
支出の部				
災害看護支援助成支出	3 件	1,628,550	4 件	2,818,240
支出合計	1,628,550		2,818,240	
単年度収支	3,466,752		-1,380,795	
前年度繰越	0		3,466,752	
災害看護支援口(積立金)口座残高※	3,466,752		2,085,957	
《内訳》 三菱東京 UFJ 銀行	3,466,752		1,085,957	
ゆうちょ銀行	0		1,000,000	

※「特定資産」として一般正味財産とは別途の財産管理(法人化以前の「特別会計」と同様の扱い)をしている。

《助成支出内訳》

☆平成 23(2011) 年度

代表者名	事業名	助成金額
川嶋 みどり	ケアを媒体にした新しいコミュニティを形成する活動の一環としてのなでしこ茶論(サロン)の運営	760,000
島内 節	震災被災地支援のために看護師への在宅ケア研修会	496,261
宇佐美 しおり	災害支援ジョイントプロジェクト	372,289
		3 件 1,628,550

☆平成 24(2012) 年度

代表者名	事業名	助成金額
川嶋 みどり	東日本大震災における被災地の看護職者の語りを通して看護実践内容を明らかにする	995,000
山本 あい子	兵庫県立大学・宮城大学看護東北プロジェクト 気仙沼市鹿折地区仮設住宅の家庭全戸訪問による健康調査	900,000
佐々木 久美子	宮城大学看護学生・教職員による南三陸町に在住する高齢者への健康支援活動を行うためのシステムづくり	500,000
綾部 明江	都市部に避難した東日本大震災被害者への健康支援事業の実施	423,240
		4 件 2,818,240

監 査 報 告 書

公益社団法人 日本看護科学学会
理事長 小松 浩子 様

平成 24 年（2012 年）4 月 1 日から平成 25 年（2013 年）3 月 31 日までの事業年度の理事の職務の執行に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私ども監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る財務諸表（貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書、財産目録）および収支計算書について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。

(2) 財務諸表の監査結果

財務諸表は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成 25 年（2013 年）4 月 27 日

公益社団法人 日本看護科学学会
監 事 小 島 操 子（印省略）
監 事 近 藤 潤 子（印省略）

独立監査人の監査報告書

平成 25 年 5 月 10 日

公益社団法人 日本看護科学学会
理事長 小松 浩子 殿

牧真之介公認会計士事務所
公認会計士 牧 真 之 介 ㊞

〈財務諸表監査〉

私は、公益社団法人日本看護科学学会の平成 24 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日までの平成 24 年度の貸借対照表及び損益計算書（公益認定等ガイドライン I-5(1) の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）並びにその附属明細書並びに財務諸表に対する注記について監査し、併せて、貸借対照表内訳表及び正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

財務諸表等に対する理事者の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

私の責任は、私が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。私は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、私に財務諸表等に重要な虚偽の表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表等の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、私の判断により、不正又は誤謬による財務諸表等の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、私は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表等の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、理事者が採用した会計方針及びその適用方法並びに理事者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表等の表示を検討することが含まれる。

私は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

私は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産、損益（正味財産増減）の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

〈財産目録に対する意見〉

私は、公益社団法人日本看護科学学会の平成 25 年 3 月 31 日現在の平成 24 年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

財産目録に対する理事者の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、

公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監査人の責任

私の責任は、財産目録等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

財産目録に対する監査意見

私は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

利害関係

公益社団法人日本看護科学学会と私との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

理事選任案

現理事任期満了（平成 25 年 6 月 23 日）による新理事の選任について

氏 名	所 属
麻 原 き よ み	聖路加看護大学
阿 保 順 子	長野県看護大学
萱 間 真 美	聖路加看護大学
グ レ ッ グ 美 鈴	神戸市看護大学
小 板 橋 喜 久 代	群馬大学大学院
酒 井 郁 子	千葉大学大学院
高 橋 眞 理	北里大学
武 田 祐 子	慶應義塾大学
田 村 や よ ひ	国立看護大学校
中 山 洋 子	高知県立大学
宮 崎 美 砂 子	千葉大学大学院
安 酸 史 子	防衛医科大学校
山 本 あ い 子	兵庫県立大学
吉 沢 豊 予 子	東北大学大学院
和 住 淑 子	千葉大学大学院

(以上 15 名, 五十音順)